

ようこそ

新城市へ



新城市市章

歓迎



その角を曲がると 何かがある

さあ 歩こう歴史の舞台を

三英傑集結：決戦火蓋の地

【長篠・設楽原古戦場】

設楽原ボランティアガイドの会ホームページ



戦い直後から4百数十年続く鎮魂の火まつり【火おんどり】



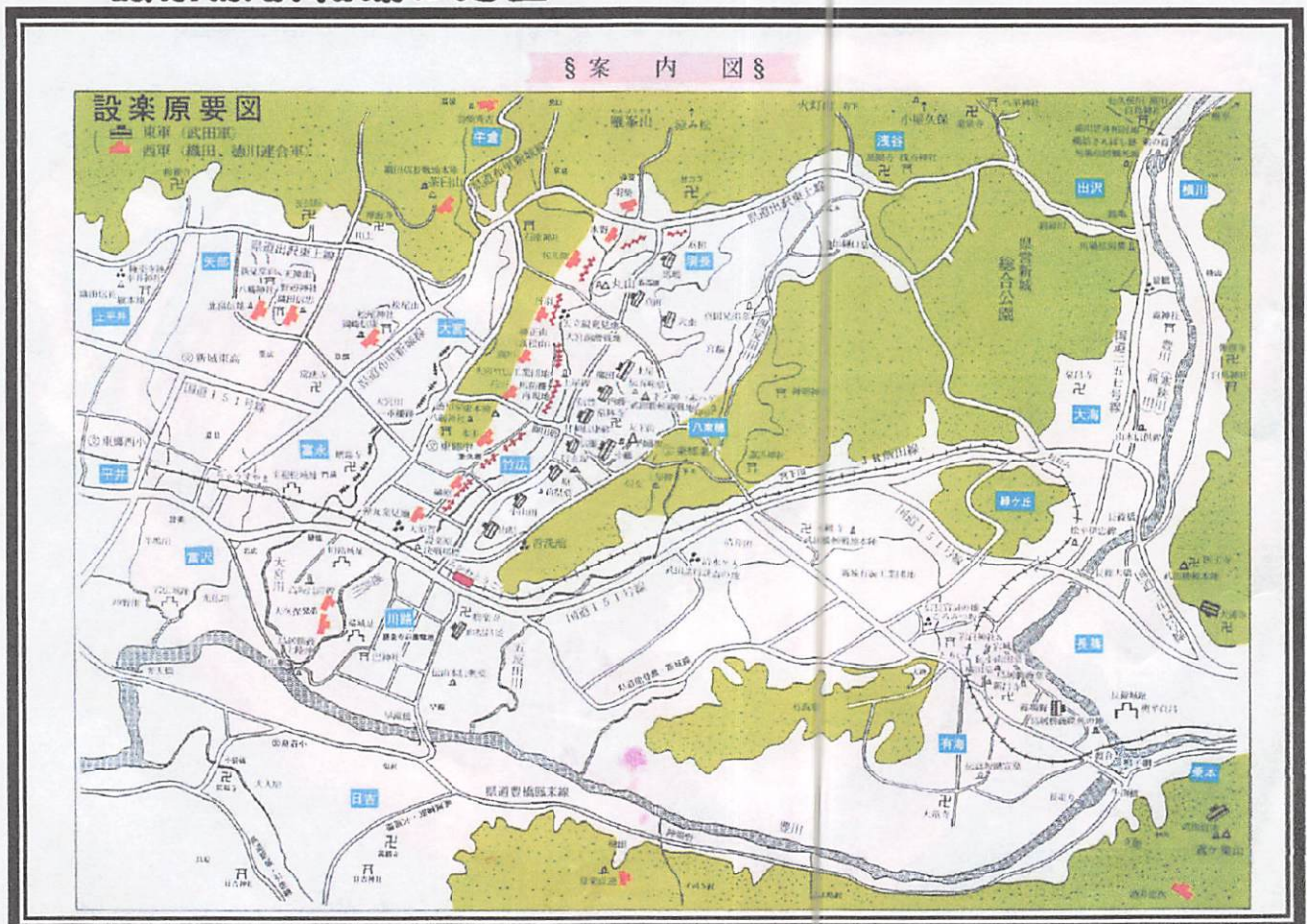
【設楽原古戦場をカルタでめぐる】

- ・設楽原をまもる会は、昭和58年4月1日に、『かるたでつづる設楽原古戦場』を発行した。設楽原の戦いに関係する戦国の武人を48句で詠んだものです。それぞれ関係する場所にイロハカルタの看板を立てて、往時を偲べるようになっています。設楽原の戦国の歴史の跡を、かるたで訪ねて見ましょう。



- ・設楽原は、長篠城から4キロほど離れた場所です。中央を連吾川が真っすぐ流れ、弾正山(織田・徳川軍)と信玄台地(武田軍)が陣を張りました。目の前に敵の兵士の動きが分かる距離でした。狭くて細長い設楽原で、織田・徳川軍3万8,000人、武田軍1万2,000人の兵士が死闘を繰り広げました。

📍 設楽原決戦場の地図



新東名高速道路の開通により古戦場の景観も大きく変わりました。

【設楽原古戦場をカルタでめぐる】

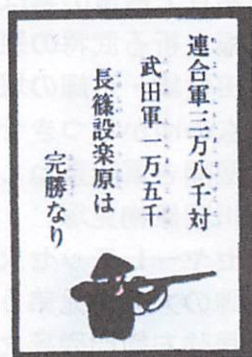
目次

さあ歩こう 歴史の舞台を！



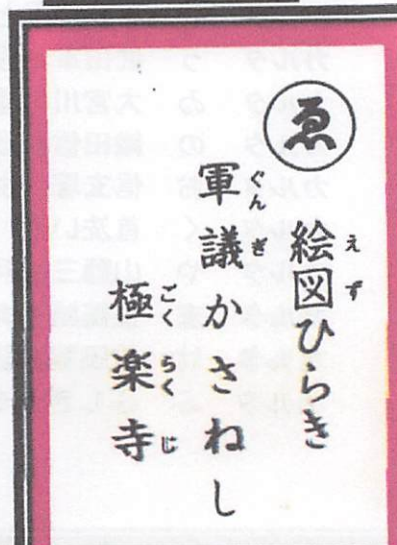
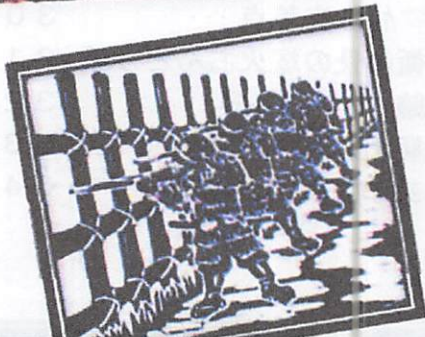
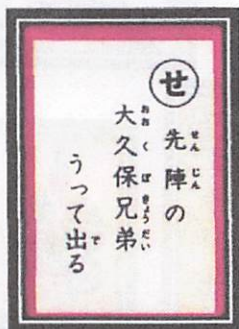
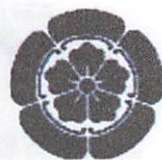
設楽原古戦場をカルタで巡る 表紙

目次 その1	1
目次 その2	2
カルタ い	徳川家康本陣地 八剣神社	3
カルタ ろ	高天神城を落とした自信が裏目に	4
カルタ は	羽柴秀吉の陣地跡 牛倉 旗ぼこ	5
カルタ に	設楽原決戦場 連吾川と雁峰山	6
カルタ ほ	火縄銃の玉発見の標註 資料館裏	7
カルタ へ	馬場信房の出沢のお墓	8
カルタ と	設楽氏の領地だから設楽原	9
カルタ ち	原昌胤(まさたね)の塚 竹広	10
カルタ り	傳五味与惣兵衛貞氏の塚 八束穂	11
カルタ ぬ	戦いは、なぜ連吾川で行われ	12
カルタ る	高坂源五郎昌澄の塚	13
カルタ を	雄雄しくも立腹さばく甘利	14
カルタ わ	笠井肥後守満秀の塚 横川	15
カルタ か	山本勘蔵信供の塚 勝楽寺前激戦地	16
カルタ よ	酒井忠次の鷲ヶ巢山奇襲攻撃	17
カルタ た	火縄銃の歴史	18
カルタ れ	馬防柵再現地 連吾川	19
カルタ そ	牧野文斉と牧野文斉記念公園	20
カルタ つ	土屋右衛門尉昌次の塚	21
カルタ ね	聖堂山勝楽寺 川路三河東郷駅前	22
カルタ な	内藤修理亮昌豊の塚 天王山	23
カルタ ら	もう一人の岡崎への援軍要請の使者	24
カルタ む	小屋久保と戦いの目撃者	25
カルタ う	武田軍が設楽原に進軍を開始する	26
カルタ ゐ	大宮川も重要な役目を果たした	27
カルタ の	織田信長戦地本陣 茶臼山	28
カルタ お	信玄塚 供養塔	29
カルタ く	首洗い池 竹広交差点	30
カルタ や	山縣三郎兵衛昌景の塚火おんどり坂	31
カルタ ま	長篠城本丸跡	32
カルタ け	武田諸將訣杯の跡 清井田	33
カルタ ふ	ふしぎにも蜂の大群姿けす	34



カルタ	こ	武田勝頼公指揮の地の石碑天王山	35
カルタ	え	えんえん柵木岐阜よりかつぎくる	36
カルタ	て	酒井忠次の大迂回作戦……	37
カルタ	あ	武田勝頼親戦地 才の神……	38
カルタ	さ	丸山砦跡 ……………	39
カルタ	き	鳶ヶ巣山奇襲攻撃 ……………	40
カルタ	ゆ	故ありて昌澄の墓は小川路に (13)	
カルタ	め	冥福を祈る武将の慰霊碑……	41
カルタ	み	真田信綱・正輝の塚 三子山	42
カルタ	し	信玄のゆかりつきせぬこの地名	43
カルタ	ゑ	絵図開き軍議重ねし極楽寺……	44
カルタ	ひ	徳川家康物見塚 東郷中学	45
カルタ	も	モッセヤーレモッセ火おんどり (34)	
カルタ	せ	先陣の大久保兄弟うって出る	46
カルタ	す	鳥居強右衛門磔死之跡碑……	47
カルタ	京	京を目指す武田の雄姿今悲し	48
古戦場に伝わる民話①		おとら狐 ……………	49
古戦場に伝わる民話②		医王寺の片葉のアシ	50
古戦場に伝わる民話③		石座神社の神馬……	51
古戦場に伝わる民話④		賓頭盧様 ……………	52
気をつけてお帰り下さい		最後のページ……	53

皆様のご協力で完成いたしました。今後も整理してまいります。有り難う御座いました。



【徳川家康本陣地】(八劔神社)

① 家康が本陣

ここに八劔山

・徳川家康本陣
竹広八劔神社



設楽原古戦場
いろはかるた
家康が
本陣ここに
八劔山
昭和五十六年七月九日
設楽原をまもる会
八劔神社A子

・徳川家康が戦地本陣を置いた、八劔神社は、東郷中学の西門の位置に在ります。創立年月日不詳
古来より八劔大明神と称され
祭神は【劔若御子天神】

・この地の領主は、慶長6年から再び設楽市左衛門になる。
明治元年八劔神社と改名。本陣のここは弾正山の最西の場所です。



【八劔神社へのタイムスリップ】: 中学の馬防柵のフェンス確認

場所 新城市竹広字宮川172番地

- ・もつくる新城の道の駅から、バスで馬防柵再現地への、大宮交差点を右折した所で、八劔神社が目の前に現れます。
- ・八劔神社は、竹広地区と大宮地区の一部の【鎮守】の森で、春と秋には、村祭りが行われます。昔は村芝居も手筒花火も盛大に行われていました。
- ・戦い時、徳川家康と織田信長は、弾正山の裏手側の窪地に大軍を隠して、いざ戦いが始まると、新手の兵士を次々に、前線に繰り出し、武田騎馬隊を悩ましたと云われています。
- ・この八劔神社周辺には、徳川家康軍の大軍が展開していました。

【南無八劔大明神、家康が乾坤一擲の戦いぶりとくと御照覧あれ！】

徳川家康本陣跡

天正3年(1575)5月1日 武田勝頼軍はここから東へ4km離れた長篠城に攻撃を開始した。5月15日に長篠城の落城寸前の知らせを受けた徳川家康は、織田信長とともに設楽原に出陣し、5月18日に到着して「高松山、八劔高松山、弾正山」などと呼ばれたこの地に本陣を構えたと伝えられる。
ここから東へ300m離れた場所に「長篠・設楽原の戦い」の決戦が行われた連吾川が所在している。また、250m東へ行った地点には「家康物見塚(断上山第9号墳(愛知県指定史跡))」があり 戦いの最前線でかつ決戦場の中央部で陣頭指揮をした家康の姿を偲ぶことができる場所がある。

新城市教育委員会



平威の馬防柵

天正三年(一五七五)五月
戦国の歴史に名をとどめる「設楽原の馬防柵」は
どんな形で存在したのだろうか
甲州の武田軍と東海の織田・徳川軍の決戦は
騎馬と鉄砲の戦いといわれる
そこで、馬防柵はどんな役割を果たしたのだろうか
柵が立てられた二つの川の間の学校
私たちの東郷中学校は、
歴史の舞台の真つ中にあることは間違いない
私たちの今は
この運絡と続く時代の歩みの中の一コマである
新城市立東郷中学校

【高天神城を落とした自信が裏目に出た】

③ 老将の言

勝頼は封じたり

・名高田前激戦地
須長 名高田



- ・信玄亡き後武田勝頼は、諸将から期待と不安を寄せられる中、着々と美濃や遠江の、父信玄でも落とし得なかった【堅城の高天神城】を攻略した。まさに天正2年の勝頼は、自信に満ちて意気盛んな武田軍団の陣頭采配であった。【長篠・設楽原の戦い】でもこのことが、千軍万馬を経た老将たちの意見を無視した、武田軍の悲運の始まりでした。【勝って兜の緒を締めよ】

【武田勝頼の運命を分けた3つの選択決断】

赤色が勝頼が選択した決断

【長篠・設楽原の戦いの決断】

A案 敵を前にしての一時撤退

B案 長篠城を力攻めにして、そこでの籠城戦

C案 設楽原に打ち出して決戦を挑む

【御館の乱における支持の選択の決断】:外交政策の失敗

A案 上杉景勝派に味方⇒⇒甲相越の三国同盟の破棄

B案 上杉景虎派(北条氏政の弟)に味方⇒⇒景虎自刃

【再起を期した拠点の城の選択決断】

A案 真田昌幸の上州(岩櫃城いわびつ城)の選択

B案 防衛拠点として勝頼が築いた(新府城しんぷ城)の選択

C案 小山田信繁の山梨大月(岩殿城いわどの城)の選択

* 皆さんは、どの選択をしますか？



武
田
軍

突
撃

武
田
勢
突
入

五
月
十
四
日

勝
頼
の
選
択



【羽柴秀吉の陣地跡 旗ぼこ】

① はたぼこと

・牛倉 宗国

秀吉陣地の名を伝う



豊臣秀吉は、戦国一の出世頭 この戦いの前年に木下藤吉郎から羽柴秀吉に改めたとされ、この時39歳。織田信長の陣地茶臼山から、峰続きにある牛倉の宗国の高台に陣を構え武田軍の進軍を阻みました。

【はたぼこ】は羽柴秀吉が、陣地に多くの旗を立てて、勢力を誇ったところから名前が付いたと云われています。

【はたぼこ】からは、信長の本陣は目と鼻の先です。

・羽柴と号す所以は、丹羽長秀と柴田勝家にあやかる称号なり。

羽柴秀吉は、この戦いでは馬防柵の構築の陣頭指揮に当たったと信長公記に記載されています。はたぼこの陣地は、雁峰山麓から武田軍を廻り込ませない位置に布陣しました。大将の織田信長の【横】と言うより【隣】の場所で茶臼山を守護する布陣です。

壮年有為の指揮官として【ひょうたん】の馬印を押し立てていました。

・藤吉郎として、信長に仕えたのが18歳。才覚を認められて足輕の組頭となり寧々と結ばれたのが27歳。墨俣に居一夜城を築き、城持ち武将になったのが30歳。その2年後には明智光秀と共に京都奉行に任せられた。そして【長篠・設楽原の戦い】では39歳。着々と出世街道を駆け登って行きます。そして従一位関白の地位まで登り詰めます。

【出世階段の改名順】

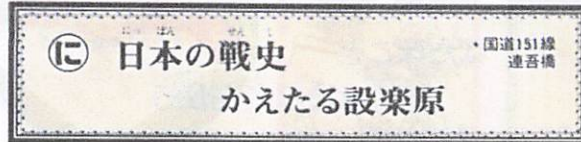
* 木下藤吉郎 → 木下秀吉 → 羽柴秀吉 → 藤原秀吉 → 豊臣秀吉



藤原秀吉に改名したのは1585年、翌年には関白となり豊臣に改姓しています。

【設楽原決戦場】

【連吾川と雁峰山】



雁峰山



決戦当時の勢力図

・この小さな小川が、【連吾川】です。かんぼう山を源流とする全長4キロほどの豊川へ注ぐ川です。雁峰山に向かって右側が、武田軍が11の部隊の陣を張った信玄台地です。

・左翼に山縣昌景隊、中央に大将の武田勝頼と内藤昌豊隊、右翼に馬場信房隊が布陣しました。左の山が弾正山で、遠くに織田軍・近くに徳川軍が、鉄壁の陣城を築き大量の火縄銃で、武田軍を迎え撃ちました。



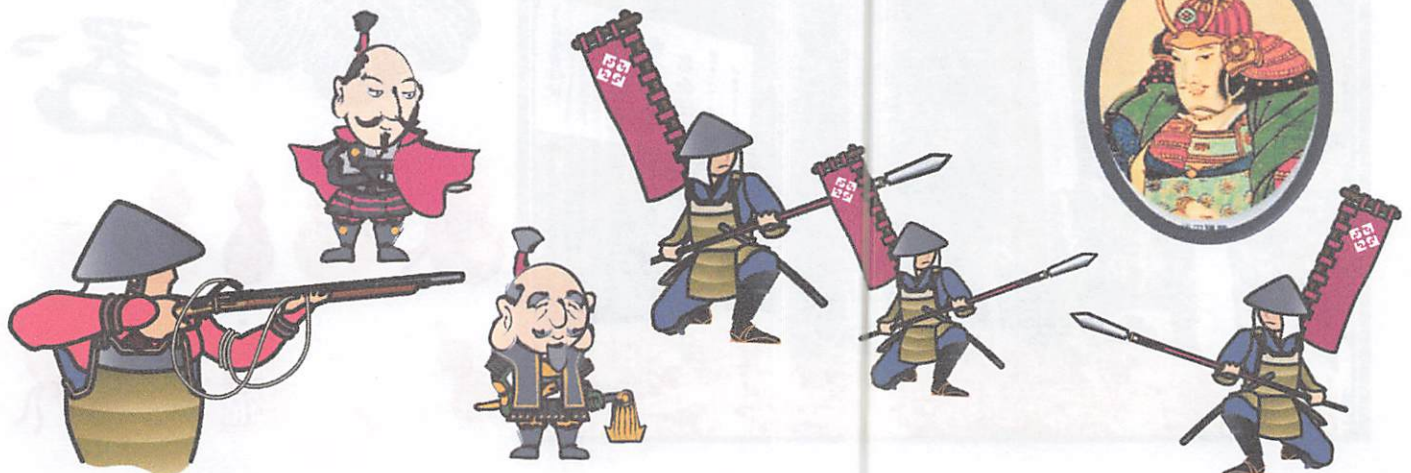
【連吾川と雁峰山へのタイムスリップ】:川の狭さを体感



場所 新城市竹広字断上:連吾川竹広橋地内

連吾川は、ウナギの寝床のような細長い川

- ・設楽原の決戦は、日本の戦史を書き換える戦いになりました。騎馬を使う伝統的な戦法は、近代的な【足軽鉄砲隊】に変わりました。
- ・当時の雁峰山(かんぼう山)は、付近の37ヶ村が入会権を持つ草山で現在の様に、山々に緑で覆われた木々はありませんでした。戦後の植林で今の様な姿になりました。
- ・連吾川は、雁峰山を水源地とする、【5キロ】ほどの豊川に注ぐ細い川です。弾正山と、信玄台地に挟まれたこの場所で新城市の人口以上の兵士が、壮絶な戦いを繰り広げました。
- ・織田信長軍3万人と、徳川家康軍8,000人の連合軍3万8,000人と武田勝頼軍12,000人が【長篠城付城軍3,000人】がこの設楽原の狭い場所に集結しました。



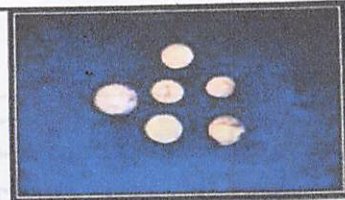
武田24将を描いた絵の中の8将がこの戦いで命を失っています。

【火縄銃の玉発見地の標識】

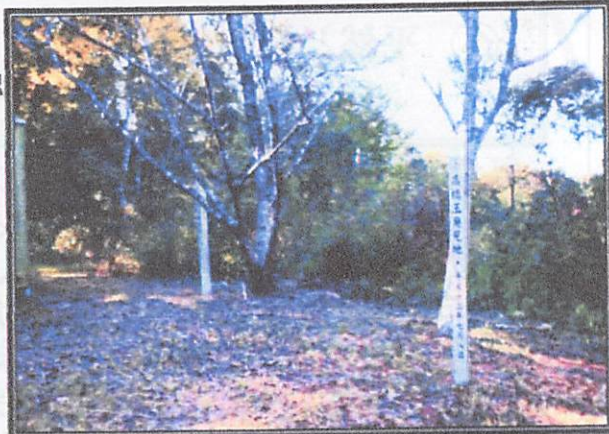
ほ 掘りあてし
弾丸は鉄玉鉛玉

・京都中学校南400m
国戦勲田跡北側

* 設楽原の決戦場で発見された火縄銃の玉は現在20個発見されている。そのうちの【19個が鉛玉】です。鉄玉の融点が1500℃、銅玉が1000℃、鉛玉が320℃で一番加工が容易であったことが影響していると思われる。
・ちなみに天下分け目の徳川家康と石田三成が戦った【関ヶ原の戦い】では1発の火縄銃の玉が見つかっていると聞く。



・火縄銃の玉: 大きさは様々です



【火縄銃の玉発見地の標識へのタイムスリップ】 標柱の確認 場所 新城市竹広信玄原552番地

- ・火縄銃の玉発見者の内訳
 - ・小学生4個 ・地元の農家3個 ・個人6個
 - ・遺跡発掘7個 計20個の火縄銃の玉が、設楽原で発見されています。小学生発見の【高橋玉】は、課外活動で資料館に来ていた、山梨県の大和村小学校の高橋梓さんが見つけたものです。決戦の設楽原と、武田家終焉の地の大和村を結ぶ奇遇ですね！
 - ・火縄銃の玉の発見された、最初の記録は【大正10年】頃です。連吾川の川沿いの畑で、当時の小学生が見つけています。
 - ・戦い当時の、火縄銃の玉は多くは国産でしたが、火薬はほとんど【外国産】でした。大坂の【堺】が外国との貿易港でした。火縄銃の玉は、当時兵士が造りました、玉の径は10mm程で銃に合わせて大きさは【まちまち】です。
 - ・令和元年5月に、資料館裏のこの場所で50人規模の発掘作業が行われ、【天正3年の5月21日】に発射されたと思われる【鉛玉】が1個出土しました。発見者の名に因み【N山恵玉】と名前が付けられました。



◀ **すぐそこ**



したらがはら
設楽原歴史資料館

火縄銃・岩瀬忠震・火おんどり



【馬場信房の出沢の塚】

設楽原で倒れた戦国の武人たち

① 平然と首を
わたす美濃守

・馬場信房の碑
出沢 銭亀

・馬場美濃隊は、開戦と同時に丸山砦付近で織田軍の佐久間信盛隊と激しくぶつかり、戦況が不利になると、勝頼本陣に向かい戦場からの引き上げを【進言】したとされます。味方の総崩れが起こる前に、少しでも戦力を残して退却を計りました。馬場美濃守は、【戦線ライン】を、寒狭川の右岸に張り押し寄せる追撃軍の中に再度身を投じ敵に首を与えたと伝わっている。



【馬場信房の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市字出沢前畑(橋詰)

設楽原古戦場
いろはかるた
平然と
首を渡す
美濃守
昭和五十六年七月九日建立
新城市立
設楽原をまもる会

・馬場信房の塚は、武田勝頼が寒狭川【猿橋】を越えて落ち延びるのを見届けた、横川の銭亀交差点脇に在ります。

ここは、決戦場の設楽原からの退却の道筋上になります。大正3年に、長篠古戦場顕彰会により建てられた、高さ155センチ、幅120センチの【馬場美濃守信房之碑】があります。碑の隣には、明治26年に地元の今泉金次郎氏により建てられた【馬場美濃守戦地之墓】が祀られています。

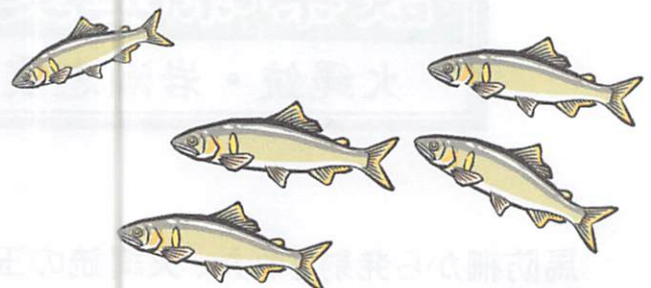
・出沢地区の人々は、昔から忠烈な勇士馬場美濃守を祀って来ました。現在は、区総代が主催し毎年8月24日にお施餓鬼が行われています。近くには、名勝【鮎滝】があり笠網漁が夏の時期の風物詞となっています。

* 静岡大学名誉教授の歴史家小和田哲男氏も馬場信房の子孫です。

武田軍が総崩れ、
連合軍が猛追



鮎滝の笠網漁



【設楽氏の領地だから設楽原】

と 樋田にて

・設楽越中守陣地
塩沢 樋田

退路をたちし設楽貞通

- ・設楽氏は鎌倉時代初期に、三河国設楽郡設楽郷が発祥だとされる。竹広設楽家は、設楽貞通の2男貞信を祖とします。徳川家康の家臣として小牧長久手の戦い、小田原征伐の陣に供奉し、大坂の夏の陣では伏見城の城番を務めた。子の設楽貞政は、竹広に陣屋を構え、七代目の貞喬の嫡男の貞丈の三男が岩瀬忠震です。一族は徳川幕府の旗本として使えます。



● 設楽家家紋 三つ盛り十二葉菊 聖堂山勝楽寺が菩提寺です。

【設楽氏ゆかりの城館へタイムスリップ】

* ①増瑞寺屋敷：(新城市富永字原ノ内) 鎌倉期の居館跡で設楽氏発祥の地 国道151号線の沿線にあります。

* ②岩広城：(新城市富沢)1312年に築かれたとされる。別名岩広村広瀬城。設楽守通の別城とされています。豊川の広瀬岸にあります。

* ③川路城：(新城市川路)別名大坪村古城。城跡に歴代城主が鷹狩の鷹の飼育に使用されたと伝わる「お鷹井戸」があります。城跡の西に小川路稲荷が残っています。新城川路駐在所奥にあります。

* ④来迎松城：(市内富永)城跡には稲荷大明神と宝筐印塔があります。

増瑞寺「構屋敷」
周囲の堀が南北に二四〇m 東西一八〇mと、全体が城館であったという。残存する堀は西側の四五mだが、深さ五m幅六mと雄大である。
・設楽氏の最初の本拠と言われる寺の正面右手にある「元設楽氏居館、旧御朱印地増瑞寺山門跡」の石碑が寺の歴史を伝える。
平成二十七年春
東柳の戦国史跡の会

設楽氏の本拠岩広城
半場川が豊川に流れ込む地点に正和元年(三二二)に設楽重清が城を築き設楽氏の本拠として次第に勢力を拡大した。
来迎松城や川路城も一族の城である。
・家康の開墾移封により設楽本家は武蔵野へ移るが、その後、分家が設楽六か村を築地とした。
平成二十八年春
東柳の戦国史跡の会

川路城址
設楽越中守貞通の居城跡。長篠・設楽原の戦いでは設楽氏の支配地が決戦場となった。貞通は、川路対岸の目吉・樋田方面に布陣した。
・当時の設楽氏は、野田の菅沼氏西郷の西郷氏とともに野田方面三入衆として結束していた。
・「お鷹井戸」は川路城の遺構。
・大坪村古城はこの城。
平成二十七年春
東柳の戦国史跡の会

設楽氏の来迎松城
設楽氏は、平安中期以来、諸書に名をとどめる設楽郷の豪族で足利將軍の奉公衆である。
来迎松城は設楽氏の居館の一つ。その名は城入口にある二本松の間から朝日を迎えたからと伝わる。
・城址は鉄道で分断されているが、東北部に土塁の一部が残っている。
・この城は、後に、弓の名手重自久四郎(家老)が守っていた。
令和二年二月 東柳の戦国史跡の会



【原隼人佐昌胤(まさたね)の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

① 治水にもつくせし
昌胤ここに死す

・原昌胤の碑
竹広 信玄塚南

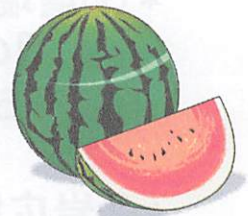


・武田家譜代の重臣で、代々陣場奉行の要職を務め、地理に精通し、陣立て等の資料を作成しました【44歳】で、徳川軍との激戦の末この地で戦死。・火おんどの【3本の種火】も、火元の旧庄屋の峰田家を出発して、火おんどり坂を進み、途中山縣三郎兵衛昌景の墓前に参り、鐘・太鼓、笛・松明の順に行列を組んでこの畑の前の道を進み、信玄塚に繰り込みます。



【原昌胤の塚へタイムスリップ】:畑には入らない

場所 新城市字山形望月家畑中



- ・原昌胤のお墓は、信玄塚の南西約100mの新城市竹広字山形537番地の3の平な畑中に在り、信玄塚の、小塚付近より畑の中に見える位置に在ります。
- ・原昌胤家は、代々武田の譜代の重臣であり、【陣場奉行】の要職を務めていました。又、信玄堤の工事を成し遂げました。
- ・畑の横の、山縣昌景公墓に、真直ぐに伸びる細い農道が、設楽原の決戦当時の幹線道路の【三州街道】です。



地理感覚に優れた領域支配の行政官僚

はら はや との すけ まさ たね
原隼人佐昌胤

(?~天正3年5月21日)

- ・信玄塚の小松より原昌胤墓を遠望→
農道は、当時の三州街道です。
- ・信玄塚小松より



【傳五味与惣兵衛貞氏の塚】謎の塚 設楽原に倒れた戦国の武人たち

① 律義にも塩瀬が残す ・伝五味貞氏の墓
八束穂 赤ハゲ
五味の首塚

・五味与惣兵衛貞氏は、鳶ヶ巣山の中山砦で、酒井忠次率いる連合軍の奇襲攻撃で敗れ討死にしたとされているが、塩瀬久兵衛により理由は判らないが、武田勝頼の【オノ神】の戦地本陣の近くのこの地に葬られた。その首塚が、豊川をへだてたこの地にあるのは確かに不思議な事です。



【五味貞氏の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市八束穂字藤谷

・東郷東小学校の裏門から、須長の集落に向かう途中の、左岡上に在ります。謎の塚の看板が、道路から見えるように立っています。勝頼公観戦地の【オノ神西の位置】です。

・五味貞氏の、子孫は、諏訪湖の周辺に多くいて、毎年のように【子孫の会】で、この場所を訪れ回向を手向けます。碑面の【傳】は、墓と伝えるということの意味しています。



👉 設楽原決戦場まつり 戦没者供養



設楽原決戦場まつり 戦没者慰霊供養 (信玄塚)

【戦いはなぜ連吾川で行われたのか】

ぬかるみに

馬もしりごむ連吾川

・東郷中学校
竹広 光輝



・連吾川周辺の地図



・設楽原の中央を、ほぼ真っ直ぐに連吾川が流れています。図の中の黒い線です。この左横には、大宮川が同じように豊川に流れ込んでいます。大宮川は蛇行が激しくのこぎりの歯のような形状をしています、火縄銃を使用する馬防柵を築くには適していません。なぜなら味方の兵士に、火縄銃の玉が当たってしまいます。

・連吾川と、この【鰻の寝床】の様な狭くて細長い【設楽原】の地形が、武田騎馬隊の動きを止めて織田・徳川の連合軍に大きな勝因をもたらした要因だとも云われている。

- ・連吾川は、柳田川、弾正川、連吾川と川の流れる村落の名前が付いていましたが、現在は総称して【連吾川】です。こ小さな小川が、織田・徳川連合軍が弾正山に築いた、陣城のお堀の役目を果たしました。
- ・連吾川は、竹広の古文書によると、寛永7年(1667)に柳田付近で水田灌漑の為、上側に新川が出来ました。豊川用水により灌漑の役目を失い、昭和になり無くなりましたが、所処に川の跡を見ることが出来ます。



設楽原古戦場

設楽原をまもる会



馬防柵の版画



設楽原をまもる会作成のテレホンカード



【高坂源五郎昌澄の塚】・謎の塚
設楽原に倒れた戦国の武人たち



③ 留守の役
高坂弾正は海津城
・川路小川路

・高坂昌澄は、長篠城の監視の部隊を率いて有海原辺りで戦死したと伝わる。その塚が川路の小川路に在るのは、設楽原の苦戦を聞いて応援に駆け付けたのであろうか。父親は武田の名将として名高い【高坂弾正昌宜】です。高坂弾正は甲斐の国の留守部隊の指揮官で、この戦いには参陣していないが【武田軍敗北】の報を受け、国境の駒場まで主君の武田勝頼を迎えに来ています。



【高坂昌澄への塚のタイムスリップ】: 昌澄の父は『甲陽軍鑑』の筆者とされる高坂昌信で武田24将の一人です。

場所 新城市川路字小川路

④ 故ありて 昌澄の
墓は小川路に
・高坂源五郎の墓
川路 小川路



・川路集落の国道151号線から、豊川へ向かう道は、勝楽寺横:郵便局右:駐在所左と、この大宮川近くの高坂昌澄の塚へと向かう4本の道があります。迷わないよう探してください。

高坂昌澄の墓

昌澄は、武田の四天王といわれた高坂弾正忠昌宣の子として、山梨県田代に生まれ設楽原の戦いには、二十五才の若々で、兵二千を率いる隊将として戦った。

昌澄は始め長篠城を取り囲む城監視隊長として戦っていたが、武田勝頼本陣から設楽原前線の信玄南坂に転戦を命ぜられ、悪戦苦闘の末、今はこれまでと单身連吾川を越え、徳川の本陣やがけて斬り込んだが徳川の将、稲生次郎左衛門との戦いにここで敗れた。

稲生は家康の指示もあって、ここに埋葬し里人にも語り吊ったという。

平成十二年四月一日
設楽原をまもる会

【甘利信康の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

⑤ 雄々しくも立ち腹
さばく甘利信康

・甘利信康之碑
八束穂 柳田の辻



- ・甘利信康は、山梨県韮崎市甘利郷の甲斐源氏の流れをくむ家柄で、代々武田氏の重臣であったと云われている。山縣昌景隊と共に、武田軍の左翼隊として戦い、武田軍総退却となり立ったまま【無念の立腹切腹】をしたと云われる。看板がお墓の隣に立っている。



【甘利信康の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市八束穂字天王：柳田の辻

- ・甘利塚は、設楽原歴史資料館から、馬防柵再現地に向けて坂を下った交差点の右側の位置に在ります。
- ・山梨県の甘利郷には、武田家発祥の【武田八幡宮願成寺】が在ります。このお寺は、ノーベル章の受賞者の大村智博氏の菩提寺でもあります。甘利信康は、設楽原の戦いでは、武田軍の左翼隊に属し、天王山の麓のダンドウ屋敷付近に留まり奮戦むなしく、頼みの村人が馬防柵の手伝いに従事したことで無念の立腹切腹をしたと伝えられています。



甘利信康塚→



・柳田橋近くの本多プラス(株)竹広倉庫
大きく古戦場の看板が張られています。



ここだけの話し：前国会議員の甘利明氏も、甘利信康の子孫です。自身の経歴で紹介しています。

【笠井肥後守満秀の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



・笠井満秀について武田軍の軍記『甲陽軍鑑』には、【命は 義より軽い御恩に報いる為の我が命】と記され武田勝頼の旗本で、勝頼の敗走を見届けて、自ら勝頼の馬にまたがり、滝川助義と死闘を繰り広げ相討死したと伝わる。

渡河の寒狭川近くの出沢の【龍泉寺】の裏に立派な塚が建立された。



【笠井肥後守満秀の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市出沢的場田：龍泉寺

・新城総合公園裏手の出沢地区の【龍泉寺】の裏の出沢公民館に隣り合って【笠井肥後守満秀】の墓域が在ります。



・武田軍退却の古戦場跡 お食事は花の木公園で三河のナイアガラの滝を見ながら！ お話も店主の丸山様に伺うことも出来ます。

【山本勘蔵信供の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

か 勘蔵は

この地に死して名を残す

・山本信供の墓
川路 下川路

・山本勘蔵は、山本勘助晴行の次男で24歳で奮戦勇戦の末、長篠城に近い有海原辺りで討ち死にした記録がありますが、塚は何故か遠く離れた設楽原の、勝楽寺前激戦地の畑中の位置に在ります。

・父の山本勘助は、武田信玄に仕えた軍師として名高く、諸説ありますが、豊橋市加茂町で生まれたと伝わります。幾多の苦難を乗り越えて、武田家の軍師として花咲きます。

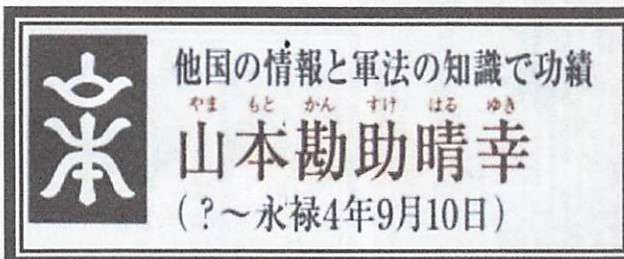


【山本勘蔵信供の塚へのタイムスリップ】 父は軍師山本勘助 場所 新城市川路字下川路

・山本勘蔵の塚は、勝楽寺前激戦地を豊川に向かう畑田の中の、農道脇に在ります。川路の勝楽寺の門前から、200m程の南の田のあぜ道に【傳山本勘蔵信供之墓】と小さな一石五輪塔が祀られています。山本勘蔵は、武田勝頼の旗本付であったと伝わります。

徳川軍の、本多忠勝などの武将の追撃をかわしつつ、設楽原に向かう大海辺りの地で壮絶な戦死をしたと云われています。川路の地元の人々は、山本勘蔵の塚を【カンスケ塚】と呼んで親しんでいます。

父親は軍師山本勘助→



山本勘助の生誕地は、豊橋の加茂町との説があります。新城市黒田にもゆかりの地有

【酒井忠次の鳶ヶ巣山奇襲攻撃】

よ 吉川より

豊田藤助先にたち

・松山観音道
吉川 井田



- ・酒井忠次の鳶ヶ巣山奇襲攻撃隊には、地元の地理に明るい、設楽貞通や野田の菅沼定盈らの武将が先陣を務めていた。塩沢村の、【郷士豊田藤助】が、雨のそば降る闇夜を先導し、足元に注意しながら松山越えの山道を案内していた。やがて松山観音堂に着くと、酒井忠次は、それぞれの武田五砦の攻撃する手はずを整えた。かくて、全将士が兜の緒を締め直し攻撃目標の砦に向け出発した。天正3年の5月21日の午前5時頃のことである。

*武田軍は長篠城を1万5,000の兵でアリのはい出る隙も無く囲みました。

【長篠城包囲配陣表】 : 武田軍の包囲布陣

・大通寺山	馬場信房ら	2,000人
・天神山	土屋昌次ら	2,500人
・篠場野	穴山信君ら	1,500人
・有海原	山縣昌景ら	1,000人
・医王寺山	武田勝頼	3,000人
・鳶ヶ巣山	武田信実ら	1,000人
・岩代	内藤昌豊ら	2,000人
・本陣後方	甘利信康ら	2,000人

武田勝頼朝臣
景徳院殿頼山陽公大屋像

武田軍



・その他 久間砦 中山砦 姥ヶ懐砦 君ヶ伏床砦



武田軍は、長篠城の食糧庫の攻撃で800名程の戦死者を出しています。

【火縄銃の歴史】紀伊の根来、大坂の堺、薩摩の坊津、豊後の森・泉、近江の国友が当時の火縄銃の一大産地でした。

た たぐいなき
騎馬隊倒す 三千挺

・大宮前遊戦地
八束橋加野茂



- ①天文12年(1543)種子島にポルトガル人が漂着し二挺の火縄銃を伝えた。
- ②天文22年(1553)織田信長が、斎藤道三と会見した聖徳寺で何挺かの鉄砲隊の記録。
- ③天文23年(1554)【村木砦の戦い】信長と今川との戦いで「鉄砲取り変え〜とある」
- ④元龜 元年(1570)【石山合戦】:信長と本願寺門徒衆との戦いで鉄砲三千挺が使われた。
- ⑤天正 3年(1575)長篠・設楽原の戦いで、武田勝頼と織田・徳川の連合軍との激闘で、三千挺の火縄銃が組織的に使用されたと伝わります。
- ⑥天正11年(1583)【賤ヶ岳の戦い】:羽柴秀吉と柴田勝家の信長の後継者争いの戦い。
- ⑦天正12年(1584)【小牧・長久手の戦い】:徳川家康と、羽柴秀吉との覇権争いの戦い。
- ⑧慶長 5年(1600)【関ヶ原の戦い】:徳川家康と石田三成が戦った天下分け目の合戦。
- ⑨慶長19年(1614)【大阪冬の陣・夏の陣】:徳川家康が豊臣秀頼と争った戦い。

【長篠・設楽原鉄砲隊へのタイムスリップ】

【信玄砲】



- ・設楽原歴史資料館には、およそ100挺の火縄銃が収集されていて、日本一のコレクションを誇ります。
- ・鉄砲伝来は、【以後予算無し】と語呂合わせで覚えます。
【1543年】に、種子島にポルトガル人が2挺の火縄銃を伝えました。種子島では、当時海岸で良質な砂鉄が取れました。八板金兵衛が苦心の末に、尾ねじの仕組みを解明し待望の火縄銃を一年後には完成させました。
- ・決戦場まつりでは、馬防柵再現地で、地元の長篠・設楽原鉄砲隊が【鉄砲三段撃ち】の演武を披露しています。
竹広の信玄塚では、火縄銃の礼射を戦没者の御霊に捧げます。
- ・空砲ながら、間断なく響き渡る【銃声】と立ち上る硝煙】が、関係者と多くの観客を魅了します。

・決戦場まつり
馬防柵再現地



【馬防柵再現地】



れ 連吾より浜田に
つづく馬防柵

・須長公会堂南50m
須長 浜田

- ・織田信長と徳川家康は、5月18日に設楽原に到着すると、2日半で連吾川沿いに、須長の浜田から竹広の連吾迄2^キ半に渡り二重三重の【馬防柵】を築きました。弾正山を陣城化して、戦国最強と言われる武田軍の騎馬隊を撃破した。
- ・この戦いでは、火縄銃が大量に効果的に使用され、その後の築城方法、戦術にも多くの変化をもたらした。清和源氏からの名門武田氏は、この戦いを機に衰退の道を歩むことに成った。



【馬防柵再現地へのタイムスリップ】：戦いの跡 場所 新城市大宮字清水：弾正山東裾

- ・設楽原をまもる会は、1981年に前長120mの【馬防柵】を手造で再現しました。織田信長と徳川家康は、極楽寺での軍議を基に、設楽原のここに到着すると、馬防柵を2日半で築きました。
- ・馬防柵のここからは、武田勝頼観戦地【才の神(アカハゲ)】が連吾川を挟んだ左前方に見ることが出来ます。
- ・織田軍と徳川軍の、馬防柵の虎口(出入り口)の違いが忠実に再現されています。
- ・鳥居強右衛門が、長篠城を脱出して狼煙を上げた雁峰山の涼み松が丸山砦趾の上方向に見えます。
- ・連吾川は、河川改修前は、台風で常に溢れる様な小川で、周辺の田は明治8年の記録では、下田と記録された沼田でした。

- ・鉄砲三段撃ちの解説は『諸説あります』武田軍の騎馬は、疾走して瞬く間に馬防柵に到達します。その為
①玉を込める兵士。②その銃を渡す兵士。③鉄砲を撃つ兵士の3人の分業体制が今では有力です。諸説あります。



当時の馬は、サラブレッドではなく木曾駒の様な背が低い足の太い馬¹⁸

【牧野文齋と牧野文齋記念公園】

- ・牧野文齋は、八束穂の信玄病院の医者で、大正3年5月に【長篠古戦場顕彰会】の中心人物として尽力され、武田諸将の立派な墓碑11基を建立した。
- ・この他、案内石標を設楽原から長篠城址にかけ、43基を設置した。尚、文齋遺稿集として【設楽原戦場考】が出版された。信玄病院の跡地が現在【牧野文齋記念公園】になっている。この公園碑は、孫の牧野尚彦氏の建立である。



⑦ そこかしこ顕彰碑
たてし牧野文齋

・八束穂 天王山

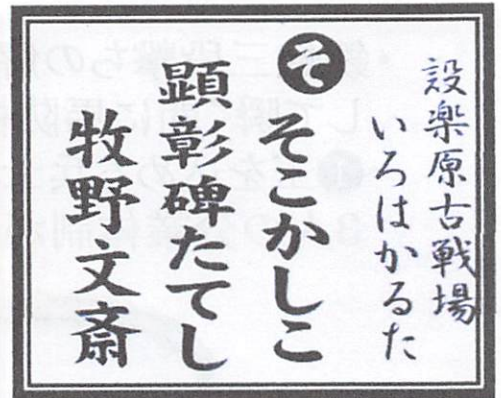


【牧野文齋記念公園へのタイムスプリット】

場所 新城市八束穂八子971番地

- ・公園は、平成21年4月18日に信玄病院の跡地に出来ました。八楽児童寮の道を挟んだ前に在ります。石造りの大きな2本の門柱が、往時の信玄病院の隆盛を偲ばせます。
- ・明治・大正・昭和と、信玄病院は、県内でも有数の入院病棟を持つ病院でした。信玄病院へ行く道の左右には、駄菓子屋、旅館、たねや、提灯屋、綿屋等が繁盛しました。文齋氏は、病院経営の傍ら、地域の振興事業にも多くの貢献を果たしました。牧野文齋氏の【長篠古戦場顕彰会】は、史跡保存に尽くし、古戦場に多くの墓石碑を建立して、戦没将士の慰霊に勤めました。【長篠古戦場顕彰会】の思いは、現在【設楽原をまもる会】に引き継がれています。

ありし日の信玄病院



【土屋右衛門尉昌次の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

㊦ 土屋昌次柵に
とりつき大音声

・土屋昌次戦死の地
馬防柵再現地

・武田信玄公以来の重臣で、金丸平八郎と称していたが、元亀元年、名族土屋氏の名跡を与えられた。武田軍の右翼隊に属し戦いの時第二の馬防柵を突破し、第三の柵にたどり着いた時、火縄銃の玉に当たり討死といわれる。

・【ただ今、君のため心おきなく討死し、高恩を地下に報いん】と呼ばわる土屋昌次の大音声は、いつまでも人びとの耳に残り、敵も味方も、その壮絶な最期を称えて惜しまなかったと云われている。



馬防柵の石碑



【土屋昌次の塚へのタイムスリップ】

八楽児童寮事務所前に在る太田夫妻の胸像→

場所 新城市八束穂字八子

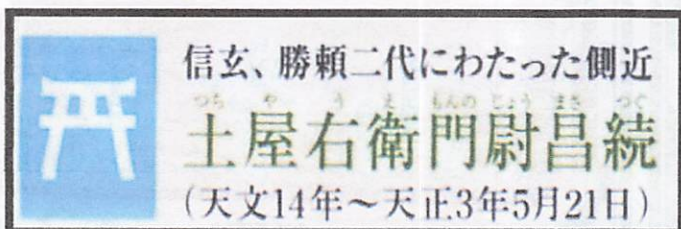


【つ】土屋昌次 柵にとりつき大音声・イロハカルタ

・塚は、八楽児童寮を過ぎて、50メートル程歩いた右手奥に在ります。大正3年に【長篠古戦場顕彰会】より建立された石碑と、大正6年に子孫の土屋正直氏によって立てられた、いくつかの石碑が在る大きな墓域です。

・塚の隣のカルムの家は、八楽児童寮を巣立った若人・家族が、帰郷のさいの【家】として建てられました。太田順一郎・松枝御夫妻は、子供たちの【鐘の鳴る丘・希望の家】として尽力を注ぎ、八楽児童寮を創設し【多くの夢と希望】を子供達に捧げ現在に至っています。

・八束穂信玄地区の歴史です。



📍 八楽児童寮



【聖堂山勝楽寺曹洞宗】

ね なんごろに

・飯田線三河東郷駅南
川路 夜燈

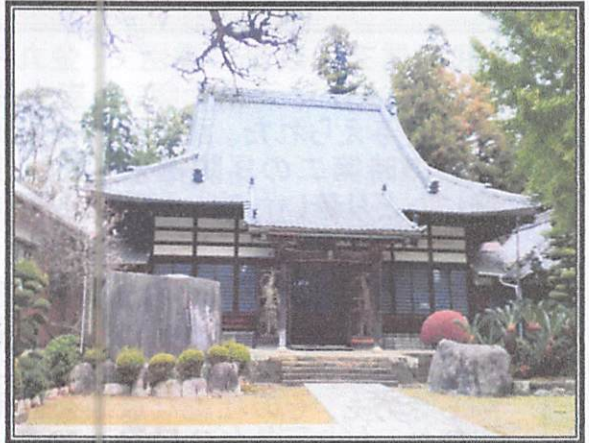
まつり絶やさぬ勝楽寺



・聖堂山勝楽寺は、JR三河東郷駅の前に在るお寺で、長篠・設楽原の戦いや、川路城主【設楽家】にゆかりのある名刹です。

・元【松楽寺】という名前でしたが、戦勝側の、織田信長と徳川家康が立ち寄り勝利に因んで、松楽寺を【勝楽寺】に改めたと云われている。

・勝楽寺には(右上写真)両軍の戦没将士の位牌115基【連合軍19柱、武田軍95柱、戦没者一切諸霊位牌の115柱】が安置祀られている。川路城主設楽家の菩提寺です。岩瀬忠震の顕彰碑が在る。



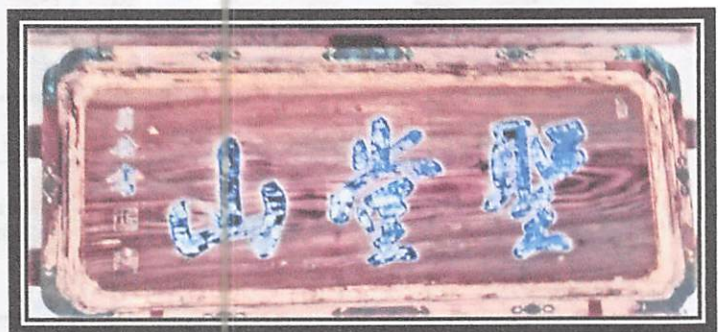
【聖堂山勝楽寺へのタイムスリップ】

場所 新城市川路字夜燈:JR三河東郷駅前

- ・勝楽寺の国道151号線に面した所に【ね】なんごろにまつり絶やさぬ勝楽寺・のイロハカルタの看板が立っています。
- ・勝楽寺は、設楽原の決戦当時は【勝楽寺前激戦地】となりました。家康家来の大久保忠世・忠佐兄弟と、山縣昌景隊が、死闘を繰り広げました。周辺には、山本勘蔵の塚・高坂昌澄の塚が点在します。
- ・本堂の入り口に掛かる【扁額】は、西郷隆盛と一緒に鹿児島島の錦江湾で入水自殺を計った【月照】の兄弟弟子の【月舟】が書いたものです。庫裏に、つるされている空道和尚作と伝えられている【魚鼓】も扁額と同じく、勝楽寺に大切にされ【寺宝】に成っています。
- ・旗本設楽家の菩提寺であり、岩瀬忠震公の顕彰碑があります。



岩瀬忠震公の顕彰碑と扁額



【内藤修理亮昌豊の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



・武田信玄公以来の、武田四将で、上野箕輪城代内藤昌豊は、武田軍の中央隊長として、天王山に布陣して、陣地を保持するために、連吾川沿いの、柳田前激戦地に6度打って出て、激しい戦いを展開したと伝わる。戦況不利と見て、大将の武田勝頼公に戦線離脱を進め、この地で壮絶な最期を遂げた53歳でこの地で戦死。



【内藤昌豊の塚へのタイムスリップ】

場所 新城市八束穂字天王：天王山公園奥

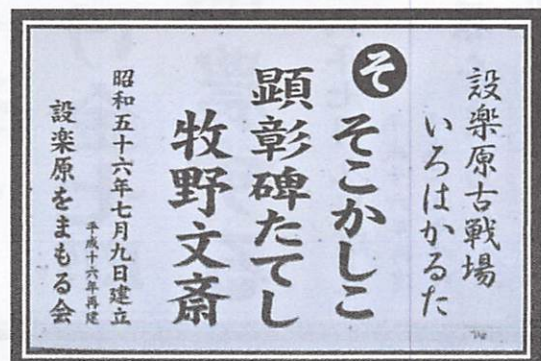
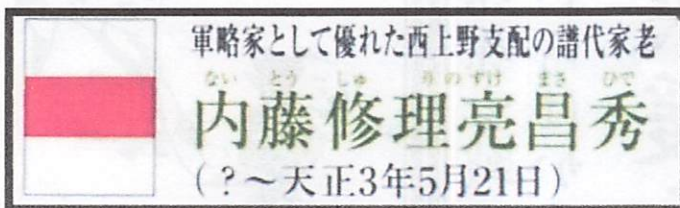


・お墓は、資料館前の道路を隔てた、中こども園の天王山広場の奥まった【武田勝頼公指揮の地】の石碑奥に在ります。お墓の横には、設楽原をまもる会制作のイロハカルタ【な】の看板が立っています。

【な】内藤の陣地も墓も 天王山

- ・内藤昌豊は、【信虎・信玄・勝頼】の三代に仕えた老臣の一人で、信玄に重く用いられました、弓矢の名手として活躍して、織田・徳川軍の築いた馬防柵を破るなど烈しい戦いを展開しました。
- ・『本多忠勝家武功聞書』によれば、内藤昌豊の兵二十余人が、第三の柵を乗り越え押し込んで来た記述があります。
- ・内藤昌豊の年齢は、書物により54歳、60歳とも伝わります。

天王山に立つ看板👉



【もう一人の岡崎への援軍要請の使者】 鈴木金七郎重正



⑤ 来援を見届け
金七郎帰農する
・高永川上 禅海寺

- ・鈴木金七郎は、新城市富永(旧川上村)の生まれで設楽原の戦いに徳川配下として、鳥居強右衛門と共に長篠城を脱出して、雁峰山で脱出成功の合図の狼煙を上げ【長篠・設楽原の戦い】の勝利に大きく貢献した。
- ・岡崎からの帰り道が二人の運命を大きく分けた。強右衛門は、武士の鑑として郷土の英雄になる。金七郎は、家康の道案内を果たしたが、戦い後は戦いの悲惨さや、人の世のはかなさを覚え、作手の大田代に隠居して帰農の道を選んだ



④ 我らの鈴木金七郎(応援歌)

【鈴木金七郎の業績を見直す会】では、様々な地域活動を通じて鈴木金七郎重正を顕彰して、多くの方に業績を発信しています。

・鈴木金七郎は、川上村のうまれで戦いの伝令の役目を果たした後は、作手の田代に帰農した。以下は会の活動内容の報告です。

- * オリジナル応援歌【我らの鈴木金七郎】製作
- * 創作講談【もう一人の鳥居強右衛門:鈴木金七郎】
- * 狼煙場の【ノタバ】へ行こうハイキング
- * 鈴木金七郎物語:カラクリブックス製作
- * 狼煙場ウォーク
- * 鈴木金七郎を見直そう講演会の実施
- * 鈴木金七郎の看板等の制作・設置
- * 決戦場まつり:長篠のぼりまつり:作手古城まつり等でPR



設楽原古戦場
いろはかるた
⑥
来援を
見届け金七郎
帰農する
昭和五十六年七月九日建立
平成十六年再建
平成二十九年改訂
設楽原をまもる会



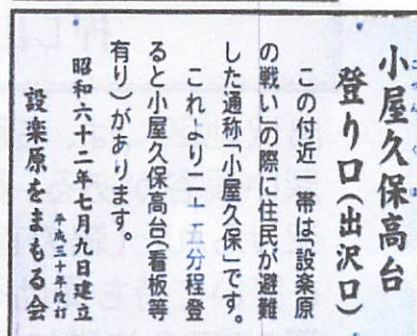
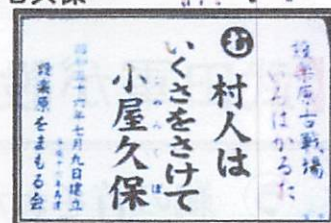
【小屋久保と戦いの目撃者】新城市出沢七久保



・戦いの戦火を避けて、戦場に住む多くの人々が、かんぼう山の中腹の【小屋久保】に避難していた。今でこそ杉林で決戦場の設楽原はあまり見えませんが、戦い当時は草刈山で戦場の様子が一望できたと思われる。住民がかたずを飲んで目の前の闘いの成り行きを見た事でしょう。

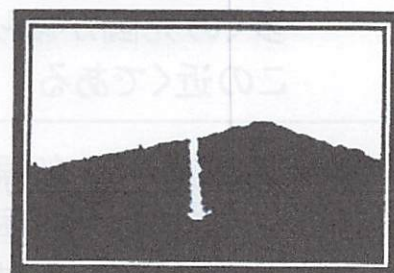
長篠合戦屏風の志村又右衛門と山縣昌景の構図描写のリアルさにも繋がっているように思える。戦が終息し帰路につく村人の胸中は、如何ばかりかと想像します。

⇒ ⇒ 小屋久保に立つ看板



【小屋久保へのタイムスリップ】:出沢七久保雁峰山中腹(小屋久保)が狼煙を上げた場所付近

決戦場まつり平和祈願隊が上げる狼煙⇒



② 村人は
いくさをさけて小屋久保

・出沢 七久保

- ・この場所へは、花の木公園の近くの、七久保から林間に行く方法と、本宮山中腹と、中央からは【長篠・設楽原パーキング】からの方法の3通りがあります。
- ・いずれも雁峰山の林の中を、車で走行する事になります。
- ・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎重正が、のろしを上げたと伝わる【涼み松】と、【のたば】の史跡があります。
- ・信長と家康への謁見後の帰り道が、二人の運命を分けました。
- ・鳥居強右衛門は、長篠城外の篠場野で磔刑になりました。君命に殉じた、強右衛門の潔さは武士の手本と持てはやされました。
- ・鈴木金七郎は、武士を捨てて、作手の田代へ帰農しました。

・新城市東郷自治区製作の
イラスト かんぼうや ネコ武将 モッセッセ



【武田軍が設楽原に進軍を開始する】

③ 鶺鴒の首をわたりて
押し出す武田勢

・出沢 橋詰



- ・出沢地区には、名勝【鶺鴒の首】【鮎滝】【猿橋】と呼ばれる深い溪谷がある。長篠城を囲んでいた武田軍は、武田流の技術で架けられた【鶺鴒の首】の棧橋を渡河して、織田・徳川連合軍が、馬防柵を築いて待ち受ける決戦場の設楽原へと進軍を開始した。この場所は翌21日の決戦に負けた、武田軍の退路の道筋であり、【橋詰】では、多くの死闘が繰り広げられた。名将馬場信房の戦死地【緒巻桜】もこの近くである。

- ・武田勝頼は、設楽原の弾正山に現れた織田・徳川連合軍軍を前にして決戦の前日に、領国の家臣の三浦右馬助宛てに送った手紙には、自信に満ち溢れた内容とも思われる文面が見受けられます。

【敵失行之術 一段逼迫之体 遂本意】

- ・敵は、手立てを失い、一段とひっ迫して柵にとじこもっている。これを好機と捉えて、今こそ撃ち掛かり念願を叶えたい。
- ・武田勝頼は、乾坤一擲の大勝負に出た。押し太鼓と共に、武田軍に一斉突撃を命じた。織田・徳川連合軍との死闘が開始された。

* おなじ頃書かれた、もう1通の武田勝頼の手紙には勝頼の優しい一面が伺えます。

手紙は、おそらく長篠攻め医王寺本陣から、親しい女性に出されたものだと思います。



『機嫌いかががお過ごしですか、そればかりが心にかかり、そなたのことを思い続けています。入梅のことで油断なく養生することが大切です。』

・残念ながら切封で宛名不明：東京大学史学編纂所が所蔵

【武田勝頼の不運】・信玄時代に豊富に掘り出された甲州金が勝頼の時代には、枯渇して来た・軍資金不足か？津具金山



【大宮川】【五反田川】も戦いに重要な役目を果たした。

⑥ 井戸がわり
大宮川で湧きやす

・東郷中学校
西200m



・設楽原には、雁峰山を水源として豊川に注ぐ3本の川があります。連吾川はその中央を流れる川で最も重要な役目を果たしました。織田・徳川連合軍は、馬防柵を右岸に築き進軍を阻みました。西側の
大宮川は、連合軍3万8,000人の兵站用として飲み水の重要な役割を果たしたと思われます。東側の五反田川も、武田軍に取りまして兵馬の飲料水として必要な川でした。武田軍は、この戦いに1,000頭余りの馬を連れて来たと言われていますので莫大な水を必要としました。

・大宮川には、万が一に備え馬防柵が重要地点に築かれました。

一重柵
(大宮川)
設楽原をまもる会

石亀がらの手紙
わたしたちも、ずっと昔からこの川の周りで暮らしてきました。何百年も何千年も……でも、近頃、急に住みにくくなりました。上の土へあがれなくて、困っています。わたしたちは川だけでは生きていきません。人間の皆さん、わたしたちも一緒に仲よく暮らしたいのです。
平成23年 早春の日
四反田川カメの会

石亀は、日本の固有種です。食べ物は、雑食性。産卵は夏、水辺近くの土。

⑦ 井戸がわり
大宮川で
湧きやす



五反田川

・連吾川の竹広激戦地に立つ説明看板

し たら が は ら
設楽原の戦い

天正3(1575)年5月1日、武田勝頼は1万5千の兵を率いて長篠城をとり囲んだ。城主奥平貞昌は城兵5百とともによくこれを防ぎ、14日、鳥居勝商の決死的な脱出により、織田、徳川の援軍を得ることに成功した。20日、武田軍は3千の兵を長篠城の押さえに残し、織田、徳川連合軍3万8千の布陣するこの設楽原に進撃した。

戦いは5月21日(陽暦7月9日)連吾川(左)をはさみ、織田、徳川の鉄砲隊と武田の騎馬隊が壮絶な戦闘をくり返した。多数の鉄砲と馬防柵の前に武田軍はほとんどの勇将、智将を失う惨敗を喫し、勝頼はわずかの兵に守られて甲州へ落ちのびていった。

新城市教育委員会



【織田信長戦地本陣地茶臼山】

⑨ 信長の陣
 茶臼山に歌碑もあり
・信長本陣跡
 牛倉茶臼山

・織田信長は、5月18日に設楽原に到着すると、極楽寺で軍議を開き決戦場の布陣を敷いた。織田信長は本陣を茶臼山に置いた。

・ここは家康が陣を張った、弾正山から1^キ強の地点で、戦況によっては何時でも戦場から離脱出来る位置です。

・『狐なく 声もうれしくきこゆなり 松風清き 茶臼山かね』・戦いに臨んで、密かな自信の現れの句とも読み取れる歌を詠みました。



【織田信長の本陣地へのタイムスリップ】

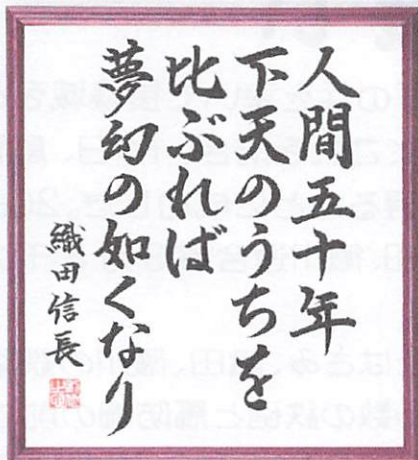
長篠設楽原パーキング
 新城市牛倉字城山:茶臼山稲荷境内



・織田信長の戦地本陣は、決戦場の設楽原とは少し離れた位置です。この時点での信長は、最前線で戦闘をするのは、部下に任せるといふ立場になっていました。

極楽寺で軍議を少し進んだ【茶臼山】に本陣を敷きました。

織田信長は、【長篠・設楽原の戦い】の7年後の天正10年6月2日に京都本能寺で明智光秀の謀反により49歳で没します。好んで舞ったと云われる【敦盛】の歌詞そのものです。



着陣

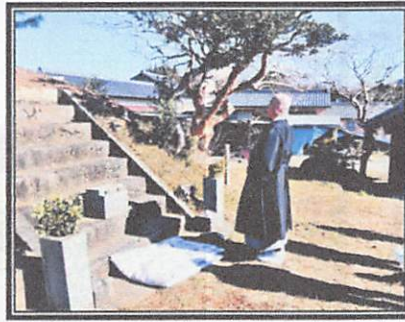
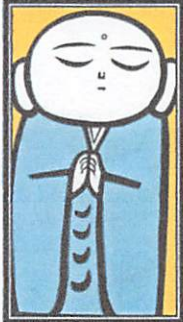


・長篠設楽原パーキング裏側からは、新城の街並みを眼下に見る事が出来ます。毎年8月13日には、見晴らし台があり、【新城の桜淵の花火】を見る絶好のポイントです。

【信玄塚】

【甲軍戦没将士の供養塔】

昭和13年山梨県民他の浄財で建立されました。



【供養塔へのタイムスリップ】:鉄製のサークル棒がありません 信玄塚広場には五基の供養塔

- ・昭和13年5月21日に、山梨県内外の有志により、高さ360㍍基礎石150㍍の山梨県産の花崗岩で【長篠役甲軍戦没将士慰霊塔宝篋印塔】が建立されました。
- ・横の副碑には、長篠・設楽原の戦いの模様が588文字で刻まれています。裏面には、基金協力者184名・14団体と発起人名が彫られています。供養塔のサークルの鉄棒は、太平洋戦争中に鉄材の供出で提供され現在迄ありません。
- ・昭和31年3月24日に、山梨県韮崎市により、武田将士の英霊が韮崎市の【新府城址】に分骨されました。韮崎市により【長篠の役甲軍陣没将士分骨碑】も建てられています。

昭和31年3月24日の盛大な分骨式写真



【首洗池】

場所 国道151号線竹広交差点の横

◀ 首洗い池は
血色に水にごる

・三河東郷駅北
信玄塚東

昭和五十六年七月九日建立
設楽原をまもる会

設楽原古戦場
いろはかるた
首洗い
池は血色に
水濁る



・文献によっては、過去に【血洗池】【刀洗池】と云われていた記録がありますが、現在は【首洗池】です。何れも当時の戦いの激しさを思い起される名前です。今でも池の水は赤く濁っています。戦い後戦没者を信玄塚に埋葬する為に、武具や戦没者を洗い清めた為だと云われています。しかしこれは、鉄分を多く含んだ赤土の土壌が原因です。



【首洗池へのタイムスリップ】:池の鯉を覗いてみよう!

新城市竹広字高原地内

首洗池の蓮の花➡



- ・首洗池は、もつくる新城の道の駅から、車で5分程の、竹広交差点の手前の場所に在ります。古くは柳の木が茂り、ヒルが多くいて気味の悪い池でしたが、現在は、桜の木と蓮の花により素敵な憩いの池に変わっています。
- ・設楽原の決戦が終わり、周辺の両軍の遺体処理を、この池で行ない兵士の身体を清めて信玄塚に埋葬したと云われます。
- ・大将首は、この近くの聖堂山勝楽寺で【首実検】がなされました。織田信長は、【松楽寺】を勝利に因んで、【勝楽寺】に変えたと伝わります。

首洗い池に立つ看板👉

首 洗 池

長篠の戦いの時、この池で戦死者の首を洗ったという。

このような地名が残ったのは、戦いがいかに壮絶であったかを想像させる。

近くに、戦死者の霊を弔った「信玄塚」が有る。

昭和57年3月30日 新城市教育委員会



【山縣三郎兵衛昌景の墓】
 設楽原に倒れた戦国の武将

や

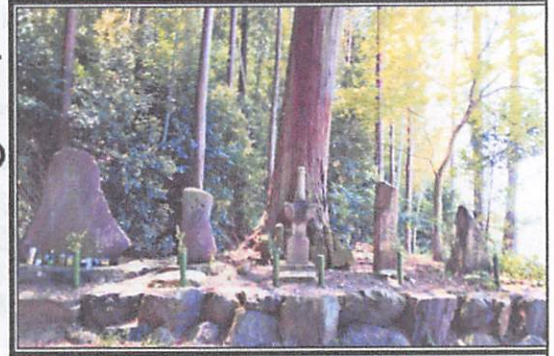
山県の最期

・山縣昌景の陣地・墓
 竹広 火踊坂

胴切りの松に秘め



・山縣昌景は、武田4将の一人で合戦の時は黒字に白桔梗の旗指物をなびかせて赤備の隊とて戦場を駆け巡った猛将です。徳川家康の陣地前の【竹広激戦地】のこの場所で火縄銃に討たれ、壮絶な最期を遂げました。⇒火おんどり坂にある山縣昌景一族のお墓



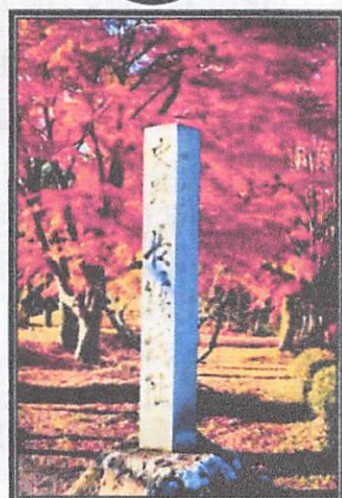
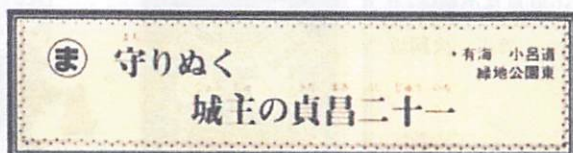
【山縣昌景の塚へのタイムスリップ】:火おんどり坂の途中
 場所 新城市竹広字山形498番地

- ・武田軍の猛将の山縣昌景は、馬防柵を築きまち受ける、徳川家康家来の大久保忠世・忠佐兄弟に果敢に、騎馬で9度突撃を繰り返し奮戦しましたが、最後は大阪新助に兜のこめかみを撃たれ力尽きました。
- 長篠合戦屏風に、被官志村又左右門が、主人山縣昌景の首級を大切に抱えて自軍に戻る様子が描かれています。
- ・墓の中央の【山縣墓】と彫られた碑は、江戸時代の三河絵図の中にも描かれています。長男の甚太郎昌次、名取又左衛門、高坂又八郎の3名の墓が寄り添うように祀られています。
- ・墓の左の一際立派なお墓は、大正3年に、長篠の戦い顕彰会により建立された物です。
- ・最近になり、山縣昌景の首級は、被官志村又左右門により菩提寺の、山梨県の天澤寺に手厚く祀られていることが解りました。
- ・山梨県天澤寺の小浦住職と山縣昌景公墓



【長篠城】

【長篠城址本丸跡】



・長篠城は、永正5年(1508)田峯菅沼氏の一族、菅沼元成によって築かれた城で、信濃、遠江、三河と接する境目の場所で、交通の要所に在り、今川家と武田家と徳川家の勢力が、互いに激しい争奪戦を繰り広げた城です。

・寒狭川と宇連川が合流する要害の地に築城された中世の平山城で長篠の戦い当時は、武田軍が1万5000人の兵で包囲し猛攻を加えましたが、城主奥平貞昌が500の城兵で死守し30倍の敵にも耐えた難攻不落の城でした。現在長篠城址内をJR飯田線も走っている。

【長篠城へのタイムスリップ】：回廊を廻ってみよう！

保存館回廊の展望筒→

場所 新城市長篠城址



- ・武田勝頼は信玄公の、【三回忌】を4月12日に躰躰ヶ崎の館で執り行い満を持して【三河の東の要：長篠城を攻撃した】、そこは武田家を寝返えり、徳川家康の家臣となった、作手亀山城の城主であった【奥平貞昌21歳】が守っていました。
- ・5月14日に、武田軍の猛攻撃で、弾正郭と二の丸(食糧庫)を奪われてしまった。此处での戦いで、武田軍は800人の戦死者を被ったと云われています。
- ・本丸のみを残す事になり、食糧も僅か3日ほどになった城主奥平貞昌は、援軍要請の使者を、鳥居強右衛門と鈴木金七郎の二人に託します。梅雨明けまじかの、豊川の激流を泳ぎ下り、カンボウ山で狼煙を上げ岡崎城へとひた走ります。

・岡崎への使者は同時説、別行動説もあります。



五月十四日
武田勢突入

【武田諸將訣盃跡】(清井田に2箇所) 清井田 八束穂字清水ヶ入

・武田軍が、長篠城から決戦の地を目指して進軍し、丘を越えた場所が、清井田の地です。ここは、新東名高速道路により大きくロケーションが変貌した。道の駅【もっくる新城】ができて、新城インターのランプウェイにより、清水寺の井戸等も当時の面影が変わりました。

① 訣盃の跡
清井田に清水わく

設楽原古戦場
いろはかるた

昭和五十六年七月九日建立
設楽原をまもる会



清水寺井戸

設楽原へ向進した武田・徳川両軍の陣地に対して、武田軍は軍旗を飾った、地蔵(地蔵の口)を祀った「決盃」か「一輪供養」か、二つに分かれた所は、最後の決戦で激戦と決まった。決戦を前に陣地の境目が、沢の水で交わしたという訣盃の跡には、いくつかの伝承がある。ここ清水寺井戸は、その一つである。

「武田・家康共へ、清井田下大井二堂で清水湧き出す訣盃跡のノボリコラ...」
一舟ニ乗リ... 清水ヶ湧き... 飲ム (大逆寺史の「決盃」)

清井田・菅野家
設楽原をまもる会
平成28年仲夏 果たたけを刊行



【武田諸將訣盃跡へのタイムスリップ】: 井戸を探してみましよう!

① 訣盃の跡

・武田諸將訣盃の跡
八束穂 清井田

清井田に清水わく



・武田4将の馬場信房・山縣昌景・土屋昌次・内藤昌豊が、明日の決戦を前に、戦の場所を見置き、清井田の清水湧き出る泉に集まり、今生の名残の決別の水盃を交わした場所です。訣盃の跡には、二つの伝承があり2箇所あります。

・武田4将は武田家の為に命を捧げました。武田4将の生きざま精神を現代に伝えたいと思います。もっくる新城のドックラン チワワ竹内コロンです!



もっくる新城は、奥三河観光のハブステーションの役割を担っています。

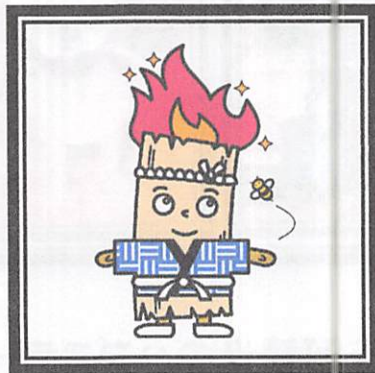
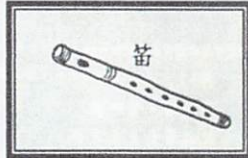
【火おんどり】

採火された火おんどの火⇒⇒



① モッセモッセ ・竹広信玄塚
ヤーレモッセの火踊り

② ふしぎにも蜂の ・大塚・小塚
竹広 信玄塚
大群姿けす



【武田勝頼公指揮の地の石碑】

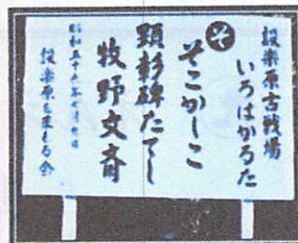
㊦ 甲田の地名

・甲田橋南
八東穂 宮脇

あわれに言い伝う

・【武田勝頼公指揮の地の石碑】は、平成5年7月11日に、山梨県大和村特産の甲州鞍馬石の自然石で造られ、武田勝頼公顕彰会により寄贈されました。会長は当時の大和村平山村長です。

・勝頼は、武田軍の中央隊で指揮しました。隣には大将の武田勝頼を守り、壮絶な戦死を遂げた内藤昌豊公之碑が【武田勝頼公指揮の碑】を見守るように仲良く並んで建立されている。



【武田勝頼公指揮の地へのタイムスリップ】:碑面の確認

場所 新城市八東穂字天王:天王山公園奥

・天王山には、大きな柴山の上に、陸軍大将土屋光春書の【招魂碑】:大正5年4月30日建立と、太平洋戦争中の戦死者を祀るお墓が、武田勝頼公指揮の碑の裏側に在ります。

【諏訪法性の兜】は、武田信玄が愛用したヤクの毛皮で飾られ獅子をイメージした兜で、遺言で息子の武田勝頼に送られたものです。【長篠・設楽原の戦い】に持参した記録が、武田軍の軍記『甲陽軍鑑』に記録があります。設楽原の決戦に敗れた武田軍の初鹿野伝衛門は、敗走の中で疲れ果て大事な【諏訪法性の兜】を畑の中に落とした、後から来た小山田弥助がこれを見つけて、持ち帰りますが、それほどまでに武田軍は、疲労困憊の撤退を余儀なくされた逸話だと思います。いつの間にか【甲田】と言われるようになったと伝わります。

武田信玄愛用の【諏訪法性の兜】と【甲陽軍鑑】



甲陽軍鑑は高坂昌信が口述で作成と伝わります。



天王山公園は、地元の方々により常に清掃され、勝頼公もさぞ喜んでいる事でしょう。

【えんえんと柵木岐阜よりかつぎくる】

え

えんえんと柵木

・馬防柵再現地

岐阜よりかつぎくる



・織田信長は、徳川家康と結んだ【清州同盟】の履行の為、石山本願寺の敵をかたずけて、岐阜城より3万の大軍で長篠城の後詰めとして、5月18日に設楽原に到着した。軍兵一人につき丸太1本と、それを結ぶ縄を持たせて、岐阜を出発させた。武田軍の騎馬隊を制圧する秘策【馬防柵構築】の為である。丸太は、3千丁とも云わる【火縄銃】のカモフラージュの意味を持つとも考えられている。21日の決戦までに2日半で連吾川沿いに馬防柵を構築した。

馬防柵の効能

- ① 柵木に火縄銃を掛けることで長時間戦える。(火縄銃は重い)
- ② 敵兵(馬)への命中率が、柵木を利用することで格段に上がる。
- ③ 柵内にいる軍兵が安心して戦える。(玉込め準備)(構え・発射)
- ④ 連吾川がお堀で、馬防柵がお城の石垣に変わる役割を果たした。



連合軍三万八千対
武田軍一万五千
長篠設楽原は
完勝なり

えんえんと
柵木 岐阜より
かつぎくる



【酒井忠次の大迂回作戦】・長篠城の攻防戦

⑦ 手振りよくおどる
酒井のえびす舞

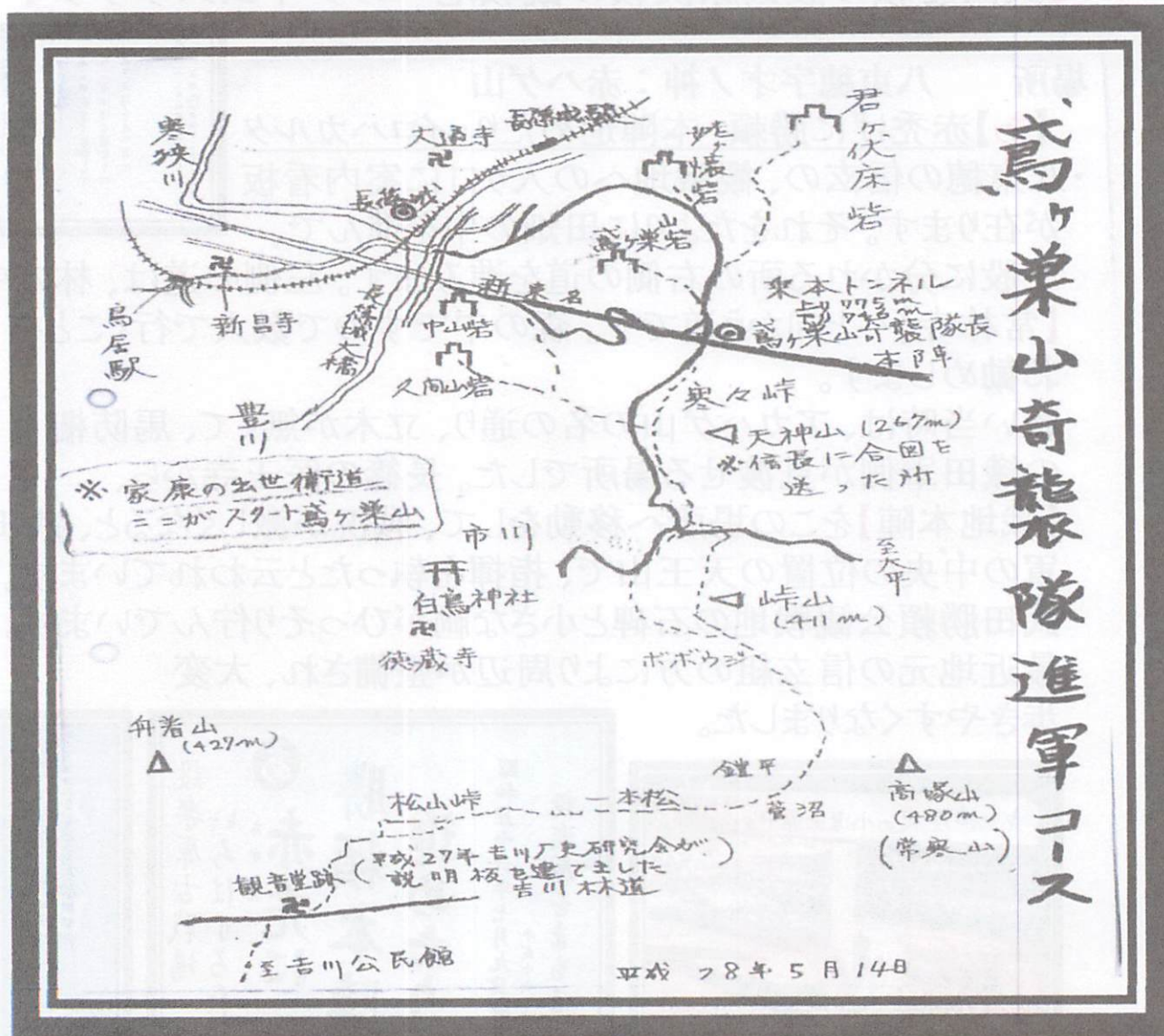
・信長本陣極楽寺跡
上平井 極楽寺山



・徳川家康の家臣酒井忠次は、極楽寺での軍議の席上【鷲ヶ巣山奇襲作戦】を提案したが、信長に即座に却下された。だが秘密裏に酒井忠次を総大将とする奇襲攻撃隊が編成され、極楽寺から直ちに豊川下流の浅瀬を渡り、舟着山を大迂回して、松山峠から菅沼山に到った。日づけは運命の【5月21日】の仏曉でした。酒井忠次隊は、武田五砦の背後へと迫った、かくして決戦の夜が明けた。銃声と怒号が山や谷にこだまし、武田軍は大混乱の内に大将武田信実を討死し、武田勢は、山を下り乗本村から有海原方面へと敗走した。



・奇襲隊進軍コース図 ・酒井忠次の陶人形 乗本 梶村昌義氏提供

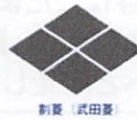


・パソコンで酒井忠次と山形県鶴岡市を検索して見たら、驚く事柄が出てきました！

【武田勝頼観戦地オノ神】



・武田勝頼は、長篠の医王寺から、戦況が変わるごとに観戦地を移動した。決戦最後の戦時本陣地は、八束穂の【オノ神】です。当時ここは赤ハゲ山の地名どおり、裸山で眼下に設楽原一帯の決戦場が見渡せたとされる。

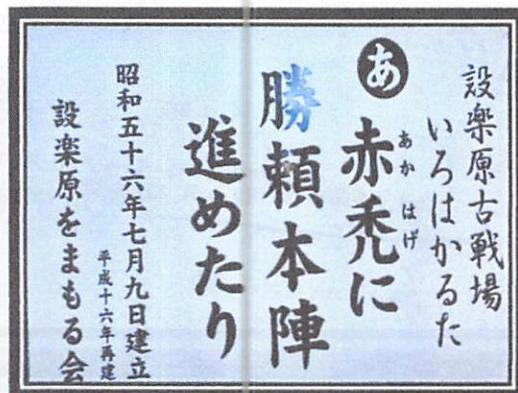
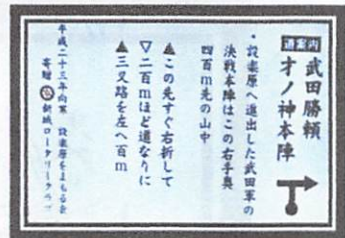


【武田勝頼の設楽原決戦の観戦地へのタイムスリップ】

場所 八束穂字オノ神：赤ハゲ山

【あ】赤禿げに勝頼 本陣進めたり・イロハカルタ
・八束穂の信玄の、観戦地への入り口に案内看板が在ります。それをたよりに田畑の中を進んで、三股に分かれる所の右側の道を進みます。左側の道は、林の中を【常林寺】へと向かう道です。森の中ですので数人で行くことをお勧めします。

戦い当時は、アカハゲ山の名の通り、立木が無くて、馬防柵の織田軍側が見渡せる場所でした。長篠の医王寺から、【戦地本陣】をこの場所へ移動をして、戦況が激しくなると、武田軍の中央の位置の天王山で、指揮を執ったと云われています。武田勝頼公観戦地の石碑と小さな祠がひっそり佇んでいます。最近地元の信玄組の方により周辺が整備され、大変歩きやすくなりました。



【丸山砦跡】

・設楽原の北に位置する丸山砦は、信長の家臣の佐久間信盛が、6千の兵で占拠していましたが、武田軍の馬場信房隊が700の兵で奪還をした場所で、設楽原の戦いでも、指折りの壮絶な死闘が行われたエリアです。

・当時は、丸山の広さは現在の倍の大きさであった事が記録されている。昭和になり良い盆栽用の土が取れたことから、徐々に今の大きさに成った。

連吾川沿いに上州産【矢立硯】発見の看板がある。



丸山攻防戦跡
古戦場いんはかるた
佐久間と馬場
丸山とりでの
攻防戦
昭和五十六年七月九日建立
設楽原をまもる会



【丸山砦へのタイムスリップ】：戦いの跡

石座神社の祭礼：大宮地区の笹踊

場所 新城市大宮

⑤ 佐久間と馬場
丸山とりでの攻防戦

・佐久間・馬場の陣地
須長 名高田



- ・甘利信康公墓を、馬防柵を左に見ながら、須長公民館方面に進んだ交差点の左側に在ります。現在は、小さな小山ですが、当時の丸山砦は、戦場の北側の【重要な拠点】でした。
- ・斜面を注意しながら登ると、当初佐久間信盛・のち馬場信春の史跡案内の石柱が立っています。此处からの眺めは、設楽原の古戦場の狭さを感じ取ることが出来ます。
- ・ここで約5万人余りの、兵士が戦ったと思うと驚きです。織田・徳川軍の築いた、馬防柵再現地前方に見て、左側には、武田軍が陣を張った【信玄台地】の山並みを見渡すことが出来ます。しばし、戦国の昔に思いを馳せます。
- ・戦い当時、織田信長・徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる石座神社がこの先に在ります。
- ・丸山砦跡の近くの石座神社と神馬小屋➡



【**鳶ヶ巣山砦**】長篠城の攻防戦
【**鳶ヶ巣山砦跡**】城の真東600mの標高140m位置

④ 奇襲隊広瀬を
・川路渡船場
渡りて鳶ヶ巣へ



- ・武田勝頼は、長篠城の攻撃の為の付城として、鳶ヶ巣山砦、君ヶ臥床(きみがふしど)砦、中山砦、久間山砦、姥ヶ懐(うばがふところ)砦の【**武田五砦**】を築いた。その一つの鳶ヶ巣山砦には、武田信実、小宮山信近らが陣を敷いた。
- ・5月21日早暁、徳川家康の家臣、酒井忠次軍の奇襲攻撃を受け、武田五砦は灰燼にきました。



【**鳶ヶ巣山砦へのタイムスリップ**】：奇襲の跡

場所 新城市字鳶ヶ巣：乗本

- ・乗本集落から急な斜面の、鳶ヶ巣山を登り切った場所に在ります。武田軍が築いた五箇所の付け城の【**要**】の役割を担いました。当時は、この場所から長篠城が、眼下に見渡すことが出来ました。
- ・戦場となった万灯山では、毎年8月15日には、【**乗本万灯**】で、戦いの戦没者の慰霊の盆行事が行われています。
- ・鳶ヶ巣山の奇襲攻撃は【**何時**】に行われたのか？
看板には21日の払暁と書かれていますが、払暁とは何時なのか、『**信長公記**』では、【**辰の刻**】とあります。
辰の刻とは、午前8時頃ですので、早朝の6時ごろに設楽原で戦闘が開始されたとしたら2時間後となります。
酒井忠次の奇襲攻撃は、武田軍を【**背後**】から脅かしました。
- ・【**久間山砦**】・・・山の山頂に本陣跡とみられる場所と、それを現す石碑があります。往時は、久間山から川向うの、長篠城や篠場野、有海村辺りが一望でき、豊川を見張る【**監視役**】の役割を担っていました。
- ・暁の酒井忠次軍の武田五砦の急襲攻撃の成功は、戦いの勝敗に大きな役割を果たしました。酒井忠次はこの戦いの【**MVP**】の武将です。

注意点

- ・鳶ヶ巣山砦から復元中山砦に向かうには、二又に分かれた道の**下方向**に進みます。

鳶ヶ巣山奇襲攻撃を語らずして、長篠・設楽原の戦いを語る事なかれ。

【信玄祖師堂跡・八楽児童寮】

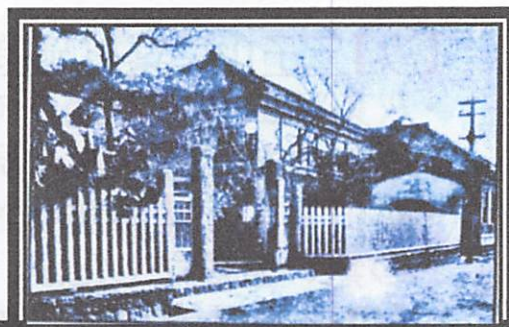
① 冥福を祈る
武将の慰霊牌

・八楽児童寮
(祖師堂跡)
八束穂 信玄



・長篠・設楽原の戦いでは、武田軍9,000名 織田・徳川連合軍6,000名の併せて1万5,000名の尊い命が失われました。戦いの直後から何回なく戦没者供養が行われて来ましたが、近年に於いては合戦350年祭後の昭和5年10月、信玄病院初代病院長牧野文齊翁は、日蓮宗に入信して【信玄祖師堂】を建て、その中に東三河数百名の会員の寄進になる、戦没者の位牌を忠魂堂に安置した。しかしこの信玄祖師堂も昭和32年に廃止され、位牌は、富士市の本願寺に祀られていた。現在は、戦いのゆかりの聖堂山勝楽寺に移管され、毎朝丁寧な読経が執り行われています。

・信玄祖師堂跡の看板は、八楽児童寮から設楽原歴史資料館へ向かう左側にひっそり建てられています。信玄祖師堂の写真と牧野文齊翁



信玄祖師堂跡

設楽原古戦場いろはかるた

① 冥福を

祈る武将の

慰霊牌

昭和五十六年七月九日建立
平成十六年再建

設楽原をまもる会

【真田信綱・昌輝公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

信濃松尾城主と弟

③ 三子山に

真田兄弟の墓ならぶ

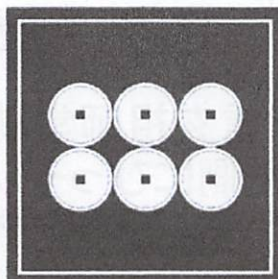
・信綱・昌輝の碑
八束穂 宮脇

・八束穂地区の宮脇の三子山に、墓石に真田信綱・真田昌輝と仲良く両雄の名を刻んだ石碑が在ります。真田一族は東信濃の名族で、鎌原・常田の地域を従えて武田家に従っていた。・武田軍の右翼隊の馬場信房隊と共に戦い、丸山砦付近の大宮激戦地で奮戦し、その後宮脇付近で味方の脱出を助けた。



【真田信綱・昌輝公の塚へのタイムスリップ】

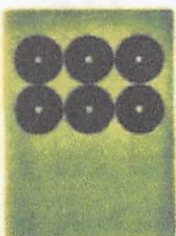
場所 新城市八束穂字上前田：三子山



【み】三子山に真田兄弟の墓ならぶ・・イロハカルタ

- ・八束穂公民館を過ぎてから、四反田川沿いに左折し【甲田】の石標を田のあぜ道の左に見て進んだ所に在ります。
- ・武田軍にとり【諏訪法性の兜】は【御旗楯無の鎧】と並んで掛替えの無い宝物でしたが、それを落として敗走する程の大敗でした。【甲田】は【諏訪法性の兜】を、初鹿野伝右衛門が、戦いで落ち延びる中で、疲労困憊の末落とした所だと伝わります。甲は、後から来た小山田弥助が甲斐の国へ持ち帰ります。
- ・真田家の家紋の【六文銭】は、三途の川の渡し賃と云われ、戦いで死をも恐れない【勇猛】さを表しています。

諏訪法性の兜➡



合戦の先頭で武勇抜群の信州先方衆

真田源太左衛門尉信綱

(天文6年～天正3年5月21日)



し 信玄のゆかり

・竹広 信玄塚

つきせぬこの地名

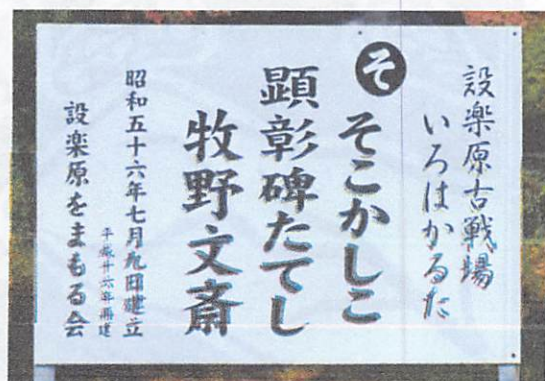


- ・設楽原の決戦で負けたのは武田勝頼であるが、合戦後450年の今なおこの地に残るのは、武田信玄の名前です。戦国の世でその名が高かった【信玄】は、その死後も諸国の人々に恐れられていた。織田信長は、この機をとらえ戦没者の塚を【信玄塚】と名付け三州街道の道行く人に【武田信玄倒れる】を印象付けたと思われる。

- ・【信玄の町】は、将軍徳川家光の鳳来寺山東照宮造営のため、街道筋の道路の改修により、三州街道に沿った【新しい信玄の町】が出来て明治の半ばまで【伊奈街道】沿いの小宿場町としての役目をはたしていた。今でもその名残の商店の屋号が、提灯屋(峯田家)下駄屋(杉浦家)本田屋(旅館)種屋(滝川家)に残されている。
- ・明治になり、牧野文斎氏の信玄病院が、隆盛を極め県内外より多くの方が病院を利用したため益々【信玄の町】は賑やかになった。
- * 牧野文斎翁(1868~1933)明治から昭和期の医者 当時、東三河地方で唯一の総合病院で3つの病棟があり、約100名の看護婦を要する大病院でした。大正3年に【長篠古戦場顕彰会】を設立し、自らは副会長を務めた。医療の傍ら、戦没者の供養、遺跡の保存、古戦場の史跡保護活動を進めた。現在多くの武田軍の将士の塚が、設楽原のそこかしこに在るのはこの活動に依るものです。又、信玄祖師堂、花菱座(娯楽施設)を立て、この地方の電気事業の発展に寄与するなど、信玄の地域に様々な貢献を残している。現在は、信玄病院跡地は、牧野文斎記念小規模公園と、住宅が立ち並んでいる。長篠古戦場顕彰会は、【設楽原をまもる会】に引き継がれている。



初代牧野文斎翁



【極楽寺跡は豊川用水建設工事で消滅】

⑤ 絵図ひらき

・信長本陣跡 上平井
極楽寺山

軍議かさねし極楽寺



・織田信長と徳川家康は、設楽原に到着すると極楽寺で軍議を開いた。軍議の壱は、連吾川沿いの窪地に馬防柵を2^キ半に渡り築く事。弐は、家康家臣の、酒井忠次率いる武田鷲ヶ巢砦の奇襲攻撃作戦である。結果的に、この2つの作戦が功を奏して織田・徳川連合軍の勝利に繋がる。極楽寺は、この時の武田軍の戦火の中で焼失したとも、お寺特有のローソクの火事で無くなったとも伝わります。豊川用水建設時の調査では、布目瓦等が多数見つかっている。東郷中学・設楽原歴史資料館で見ることが出来る。酒井忠次の恵比寿舞の逸話は、この時の軍議の席の事です。



⑤

軍議 ぐんぎ かさねし

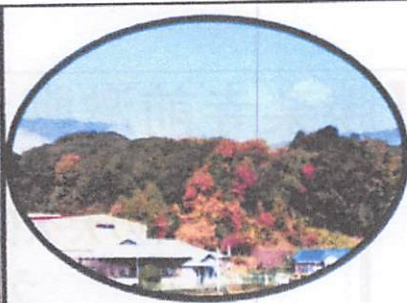
絵図 えず ひらき

極楽寺 ごくらくじ



【徳川家康物見塚】

・徳川家康の物見塚は、東郷中学の東に位置します。此处は弾正山の設楽原に張り出した小高い丘の南端にあり、最前線の【**戦闘指揮所**】に最も相応しい場所だと云われている。・本陣は八剣神社に置きました。目前には連吾川が流れ、武田軍の左翼、山縣昌景隊が陣を張りました。・設楽原の決戦の中でも、最大の激戦地と云われる【**竹広前激戦地**】が広がるエリアです。



【徳川家康物見塚へのタイムスリップ】:石碑の裏面確認

場所 新城市竹広断上地内;弾正山南端

ひ 日は悲し一五七五
ぞと武田七九

・東郷中学校東門

・此处はまさに、武田軍の主力のともいえる山縣昌景隊と相対する場所です。設楽原の決戦の中でも、最大の激戦地と云われる、【**竹広激戦地**】の広がる場所です。今では、のどかな田園が広がり、その中央を連吾川が静かに時を忘れたように流れます。

・昭和41年、5月に花崗岩の角柱の、徳川家康の著者、山岡荘八氏揮毫の【**設楽原決戦場碑**】を、新城市郷土研究会(設楽原をまもる会初代会長の峯田十光氏らが)が中心になり建てました。



断上山古墳群の10号墳は(物見塚古墳)は、全長50m 高さ6mで新城市最大の前方後円墳です。

・断上山では見事な古墳群が見られます。

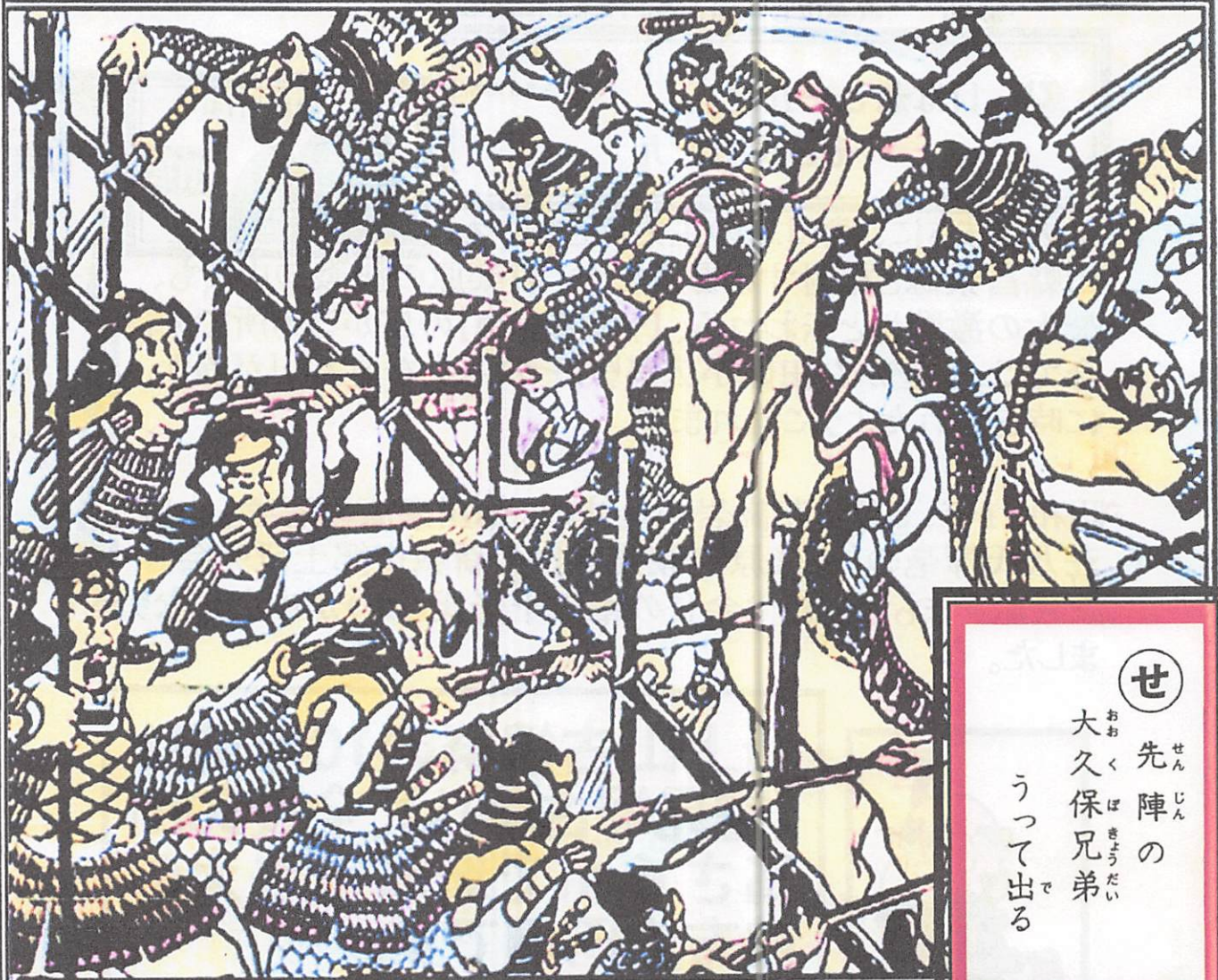
【勝楽寺前激戦地から徳川家康陣地横へ】

⑨ 先陣の大久保兄弟
うって出る

・大久保兄弟陣地
川路 小川路



・大久保忠世(ただよ)忠佐(ただすけ)兄弟は、設楽原の決戦の初期の段階では、連吾川の下流の勝楽寺前激戦地に陣を張りましたが、次第に戦いの中央に踊り出てきます。長篠合戦屏風には、アゲハ蝶の家紋を付けた忠世と、釣り鐘の家紋の忠佐が、家康の陣の真横で奮闘ぶりが描かれています。武田軍の左翼赤備の山縣昌景隊との死闘を繰り広げました。大久保彦左衛門は、忠世、忠助の弟です。



⑨ 先陣の大久保兄弟
うって出る

【鳥居強右衛門磔死之趾碑】

武士の鑑

③ 強右衛門のろしを
あげし雁峰山

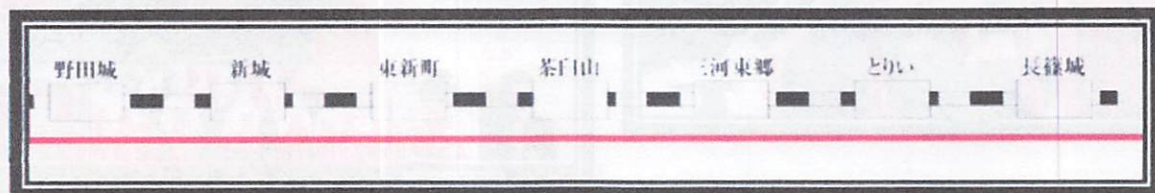
・須長 森長
・牛倉 真国

- ・鳥居強右衛門勝商は、5月14日夜半に、武田軍に包囲された、長篠城の不浄口より出て、徳川家康の岡崎城に【援軍要請】の使者として向かいます。鈴木金七郎が同行。首尾を果たし長篠城に戻ろうとしますが、捕らわれてしまいます。そして【援軍来るの真実】のことを叫び、磔(はりつけ)になりました。長篠城を救った戦いの恩人です。



【鳥居強右衛門へのタイムスリップ】:磔死之趾碑の位置は長篠城の対岸
場所 新城市有海字篠原:長篠城址対岸

- ・鳥居強右衛門は、太平洋戦争の戦前は、忠君愛国のシンボルとされ、毎年4月末に行われる【鳥居強右衛門まつり】も盛大に行われていましたが、近年は、地元有海区の住民が【郷土の英雄】としてまつりを行っています。
- ・太平洋戦争中には、【生きて虜囚の辱めを受けず】と富国強兵策に、帝国陸軍参謀本部に利用されました。
- ・新昌寺から、牛湫橋に向かって飯田線の踏切の手前を左に折れた場所に、【鳥居強右衛門磔死之趾碑】の石碑があります。大正2年4月16日、長篠古戦場顕彰会の主唱により建てられました。
- ・新城市内には、戦いに因んだJR飯田線の駅名が多くあります。野田城駅・新城駅・茶臼山駅・鳥居駅・長篠城駅・本長篠駅など歴史ファンなら是非とも乗車したいものです。



・JR飯田線鳥居駅



【武田四郎勝頼】

●この絵の上段は、武田勝頼公 下段は北条夫
と嫡男の信勝像。戦国時代のこのような絵は稀で、
武田勝頼公の一面を窺う事のできる絵です。
原典は、和歌山県高野山持明院所蔵。

●絵は、天正五年三月三日に、諏訪大社千手堂の
落慶法要が催された折りに、迎えたばかりの、北
条夫人を伴い、今で言う新婚旅行に諏訪湖畔に出
かけた時に描かれた物だと伝わっています。武田
勝頼公に取りまして、東の間の平穏な時でした。



京 京めざす武田の 雄図今悲し

・勝東寺前遺戦地

山梨県甲州市では、毎年
【ふるさと武田勝頼公まつり】の
行事で、慰霊法要と、武者行列
で、武田勝頼公を偲んでいます



甲州市ふるさと武田勝頼公まつり

第53回甲州市ふるさと武田勝頼公まつり

平成30年 4月22日

場所 大和中学校校庭
時間 10時30分～15時30分

プログラム
●慰霊法要
●武者行列
●山梨県立大
●甲斐天目山神社
●お楽しみ会 など

仲太郎・信松のぶ
歌謡ショー

詳しくは 勝頼公まつり 検索 <http://www.city.koshu.yamanashi.jp/>

主催：甲州市ふるさと武田勝頼公まつり実行委員会 お問い合わせ：甲州市役所 観光交流課 ☎0553-32-2111 (e)

* 甲州市ご当地ソング・・【武田慕情】・・ユーチューブで検索！

馬上の私は誰でしょう？〇〇優氏 答えは甲州市観光課へ

『おとら狐の民話』 大通寺の城藪稲荷とおとら狐

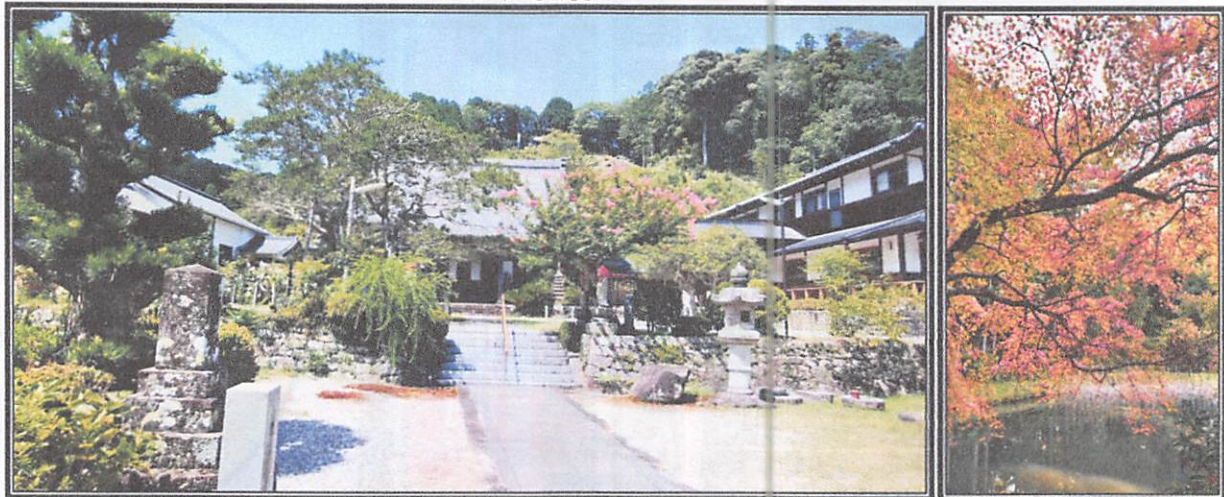


・長篠の籠城戦の戦いの折、長篠城本丸の櫓の上から1匹の狐が戦いの様子を見ていました。この狐は長篠城内の稲荷末社に棲む狐で、文字通り戦いの様子を高みの見物をしていましたが、火縄銃の流れ玉に当たり左目を失明しました。それまでも左足を痛めており、片目、片足の異形の狐でした。その後戦いに勝った城主の奥平貞昌は、徳川家康の命で新城城を(郷ヶ原に)築き、稲荷末社を置き去りにして、移ってしまいました。怒った狐は、城の近くに住む万兵衛の娘【おとら】にとり憑き生き続けました。【おとら狐】は、とり憑いた人間の体を借りて長篠城の戦いを語り、多くの人に悪戯を重ねました。困った村人は、医王寺の住職に頼んで、伏見稲荷を迎え、おとら狐を封じ込んだと云われています。長篠城の近くに住む人は、品物が紛失すると、油揚げを供えて探して頂く習慣がありました。城藪稲荷(稲荷末社)は、現在長篠城址から、目の前の大通寺に移管され多くの信仰を集めています。

桜の長篠城史跡保存館 本丸跡と縄張り図



『医王寺の片葉のアシの民話』 医王寺と紅葉の阿弥陀池

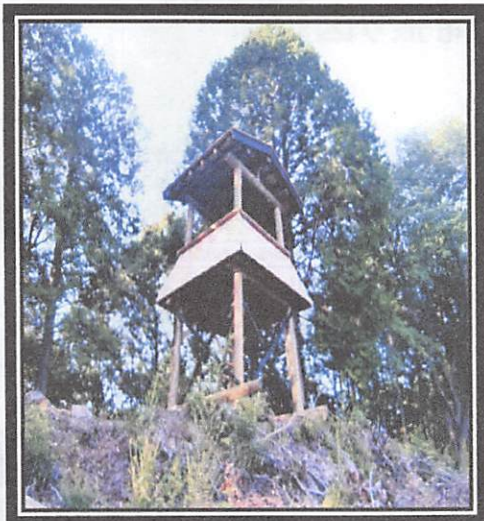


- ・【長篠・設楽原の戦い】で長篠攻めの本陣の置かれた【医王寺】に伝わるお話です。武田勝頼が、いよいよ決戦の地【設楽原】へと軍を進めようとした前夜の事です。勝頼の夢枕に【葦の精】が白髪の老人の姿となって現れ『この度の戦は、神人共にくみしない所だから、戦をやめて甲斐の国に帰れとのお告げがあったと勝頼を諫めました。』勝頼は、怒って目覚めました。5月20日の出陣の朝です。

勝頼は、この弥陀池のアシの精に向かい、『我を助けなければ、片輪にするぞ』と、刀を抜きアシの精の片腕を切り落としました。すると、池はにわかに波立って雷鳴が轟き天地が暗くなり、どこからか大声が響き渡りました。『我戒めに従わず無謀の戦をするのか、汝もこの戦で片腕と頼む臣を失うであろう』…

そして弥陀池のアシが、全て片葉になっていたとの事です。

復元医王寺山物見やぐら



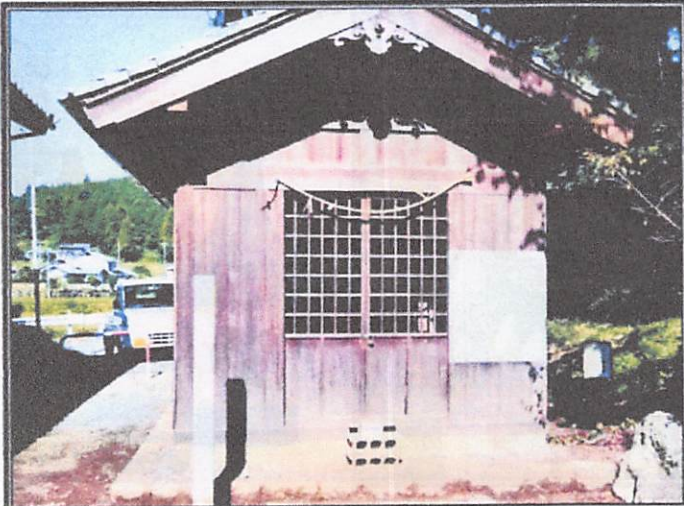
医王寺山門前にて長篠設楽原鉄砲隊

五月二十日
 武田本隊、進軍開始



『石座神社の神馬の民話』

神馬小屋と木造神馬



・木造神馬は、明和5年(1768)の7月下旬に、地元の大宮住民の長左衛門が飼っていた馬をモデルにして、般若寺の空道和尚が制作したと伝えられています。全長204cm 像高129cmのほぼ等身大の江戸時代の彫刻で、昭和33年4月1日に指定文化財に成っています。

* 大宮地区の石座神社(いわくら神社)は、長篠・設楽原の戦い時に織田信長と徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる神社です。この神社の境内には、神馬小屋がありこの中の黒い馬は、初め白馬でしたが、毎夜村に出て、田畑を食い荒らすので、格子造りの馬小屋に閉じ込め黒く塗った処、それ以後はもう出なくなり田畑も荒らされることも無くなったと云う。

* 石座神社(いわくら神社)新城市大宮字狐塚 祭神は天御中主命と天雅彦命 創建は明らかでないが、奈良時代の法令集『延喜式』の神名帳に記載されている古い格式のある神社です。

石座神社 社殿



狛犬



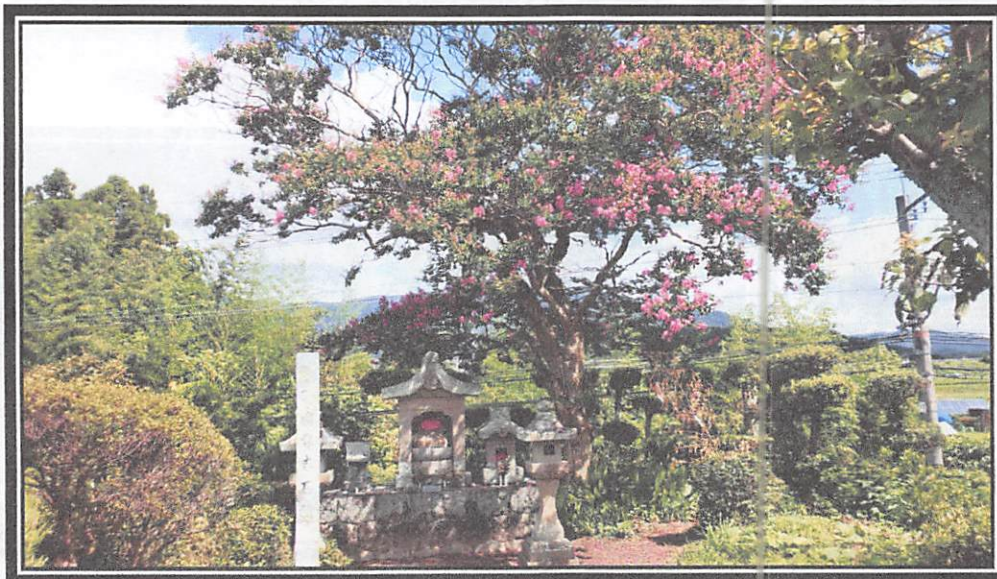
『賓頭盧尊者の【びんずる】民話』 〇 賓頭盧様



* 賓頭盧尊は、お釈迦様の弟子の一人で通称【おびんずる様】と呼ばれお寺の堂の前に置かれ、像を撫でると徐病の功德があるとされ【撫で仏】の風習があります。お酒が大好きで様々なお話があります。

* 設楽原の中央を流れる連吾川の、飯田線の鉄橋の下に【びんずる淵】があります。淵は両岸が切り立った様に成っていて、昼間でも薄暗くその中をゴーゴーと滝が音を立てて流れ、気味が悪い所です。むかしこの滝の上に、時々賓頭盧ばああが出て、ビーンビーンと糸を紡いで近くに住む人々を、気味悪がらせていました。竹広の空道和尚は、村人に頼まれ賓頭盧尊者像を造り、滝の上に祀った処、不思議にもそれから賓頭盧ばああは現れなく成りました。河川改修により賓頭盧尊者像は、近くの飯田線の鉄橋の右岸の庭に移され、大切に祀られています。空道和尚は、信玄塚の閻魔座像、石座神社の神馬、勝楽寺の魚鼓の作者です。

信玄塚お地蔵様も



毎年 川路勝楽寺様により丁寧なお施餓鬼が執り行われています。

徳川家康の足跡がそこかしこに残る街【しんしろ】
 【どうする家康】の放映を契機に、新城市の魅力の
 再発見をしましょう！新城がもっと好きになる！

歴史の見える町【新城市】



三英傑集結
 天下統一火蓋
 の地設楽原

有り難う御座いました。

皆様のご健康と
 ご多幸をお祈り
 いたします。

気を付けて
 お帰りください



長寿



このまちのお勧めの観光エリア

- ◆ 新城市設楽原歴史資料館
 新城市竹広 ☎0536-22-0673
- ◆ 新城市長篠城址史跡保存館
 新城市長篠 ☎0536-32-0162
- ◆ 道の駅「もっくる新城」
 新城市八束穂 ☎0536-24-3005

